

マラソン大会と観光に関する研究

— 函館ハーフマラソン、奥尻ムーンライトマラソン、 大沼グレートラン・ウォークの調査

大橋 美幸

I. はじめに

近年、各地で大規模なマラソン大会が開催されるようになってきている。観光への波及効果が意図されており、出場者及び同行者向けのツアー等が多く組まれている。

今回、南北海道の函館、奥尻島、大沼国定公園の3つのマラソン大会において出場者アンケートを行った。いずれも観光への波及を目指してマラソン大会を実施している。

函館ハーフマラソンは1990年代にはじまり、2016年度にフルマラソンを実施する計画である。函館市内の観光スポット周辺がコースに入っており、都市型のマラソン大会である。東京マラソンと提携し、一定基準タイム以上の完走者50人に東京マラソンへの出場権が与えられる。

奥尻ムーンライトマラソンは昨年からはじまり、フルマラソンを実施しており、2年目にあたる。奥尻ムーンライトマラソンは、他で行われ成果をあげている夕方から夜間のマラソン「ムーンライトマラソン」の商標をライセンス契約して使用しているものである。奥尻島の海岸線を走るコースであり、リゾート地のマラソン大会である。

大沼グレートラン・ウォークは1990年代から実施されており、大沼国定公園の湖畔沿いをまわる14km、6kmのコースがある。通常のハーフ・フルマラソンは18歳以上であるが、ランニングは小学生から参加でき、ウォー

クに年齢制限はない。リゾート地のファミリー系のマラソン大会である。りんごや牛乳、しいたけ等、地元の名産品が無料でサービスされる。

本稿で言う都市型（函館）、リゾート地型（奥尻）、リゾート地のファミリー系（大沼）は、都市型と、都市ではないリゾート地型が対になっており、ファミリー系はハーフマラソンやフルマラソン等だけでなく、多様な参加を認めているものを指している。今回はリゾート地においてファミリー系のマラソン大会を取り上げるが、都市型でも同様に多様な参加を認めるファミリー系はある。

それぞれのマラソン大会の観光への波及と特徴をまとめる。

Ⅱ. 都市型：函館ハーフマラソン出場者調査

1. 調査方法

函館は年間500万人が訪れる観光都市であり、市内に函館山、教会群と坂道、五稜郭公園、函館朝市等の観光スポットがあり、近郊に大沼国定公園がある。交通規制による市民の生活への影響を考慮して、スタートは8:00。7:30に選手集合、7:40から開会式が行われる。スタート地点は市電沿いにある陸上競技場である。コースは海沿いが中心で、温泉街を通る。観光名所は函館山や五稜郭タワー等を遠目に見ることができる。

2015年6月、函館ハーフマラソン出場者に対してアンケート調査を行った。事前にゼッケン等を送付する際にアンケート用紙を同封し、後日、記入の上、郵送で返送してもらった。

調査項目は回答者基本属性（性別、年代、居住地）、同行者、知った経緯、出場理由、これまでの国内・海外マラソン大会への参加経験、大会前後に訪れる観光地、宿泊利用等である。

2. 回答者基本属性

配布数4494、有効回収数950、回収率21.1%。

男性719人(76.1%)、女性226人(23.9%)。男性が3／4である。

年代は、18～29歳246人(26.0%)、30代189人(20.0%)、40代170人(18.0%)、50代202人(21.4%)、60代117人(12.4%)、70歳以上22人(2.3%)。18～29歳が最も多く、50代、30代の順である【図2.1】。幅広い年代にわたっている。

居住地は、函館市355人(37.5%)、市外道内411人(43.4%)、道外179人(18.9%)、海外1人(0.1%)【図2.2】。函館市、市外道内がそれぞれ4割、道外が2割である。市外道内のうち道南(渡島・檜山支庁管内)97人、道央(石狩・空知・胆振・日高・後志支庁管内)191人、道東(網走・十勝・釧路・根室支庁管内)89人、道北(上川・留萌・宗谷支庁管内)34人。道外のうち東北57人、関東93人、中部・北陸10人、近畿17人、中国・四国1人、九州・沖縄1人。

居住地別に性別、年代を見ると、市外道内で18～29歳がやや多い【図表2.3、2.4】。

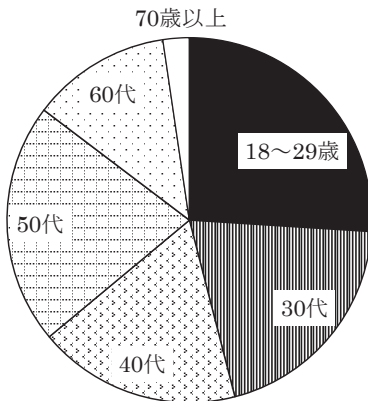


図2.1 回答者基本属性(年代)

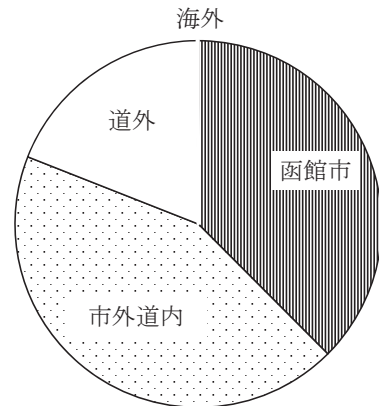
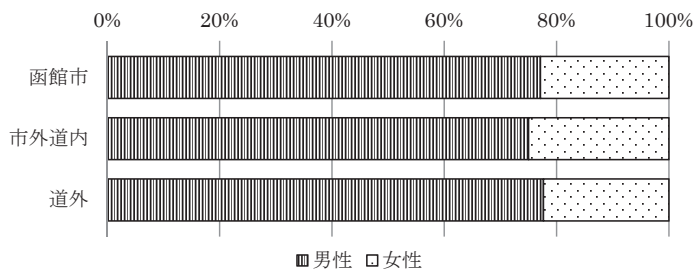


図2.2 回答者基本属性(居住地)

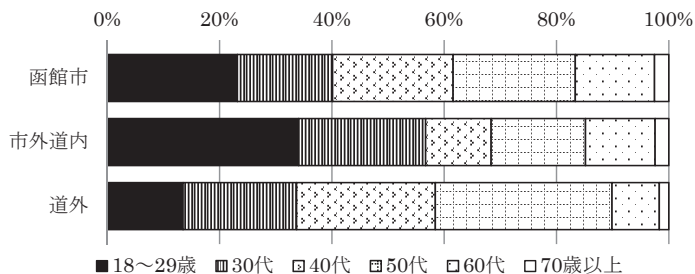
図表2.3 回答者基本属性 (居住地別の性別)

		居住地			合計
		函館市	市外道内	道外	
性別	男性	273	306	139	718
	女性	81	102	40	223
合計		354	408	179	941



図表2.4 回答者基本属性 (居住地別の年代)

		居住地			合計
		函館市	市外道内	道外	
年代	18～29歳	82	140	24	246
	30代	60	93	36	189
	40代	76	48	44	168
	50代	77	69	56	202
	60代	50	51	15	116
	70歳以上	9	10	3	22
合計		354	411	178	943



3. 主に出場しているマラソンの距離、これまでの函館マラソンの出場経験

他都市を含めて、主に出場しているマラソンの距離は、3km以下121人(12.9%)、5km程度32人(3.4%)、10km程度111人(11.8%)、ハーフマラソン381人(40.5%)、フルマラソン208人(22.1%)、50km以上20人(2.1%)、その他23人(2.4%)、出場経験なし45人(4.8%)【図2.5】。10km程度までと出場経験がない人、つまりこの機会にハーフマラソンに挑戦した人が3割である。普段からハーフマラソンに出場している人が4割、フルマラソンが2割ある。

性別によって差は見られない。年代を見ると、30代までで、主に出場しているマラソン距離が10km程度までの人が比較的多く、この機会にハーフマラソンに挑戦している【図表2.6】。居住地別に見ると、市外道内で主に出場しているマラソン距離が10km程度までの人が比較的多いが、これは市外道内で18～29歳の人が多いためと考えられる。

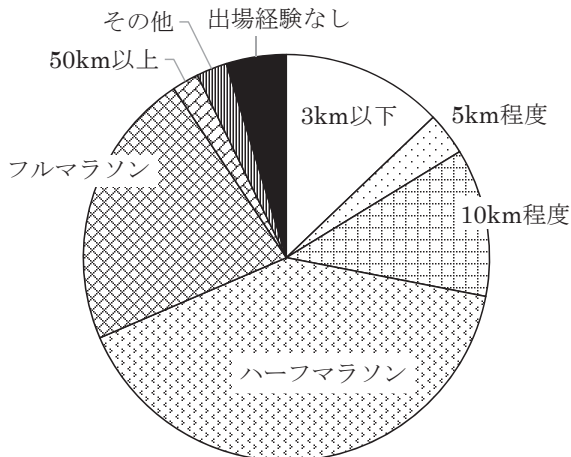
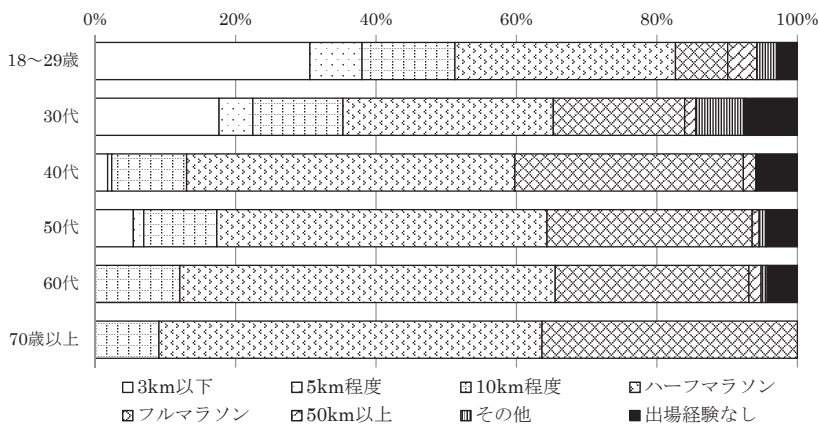


図2.5 主に出場しているマラソンの距離

図表2.6 年代別、主に出場しているマラソンの距離

		年代						合計
		18～29歳	30代	40代	50代	60代	70歳以上	
主に出場 している 距離	3km以下	74	33	3	11	0	0	121
	5km程度	18	9	1	3	0	0	31
	10km程度	32	24	18	21	14	2	111
	ハーフマラソン	76	56	79	95	62	12	380
	フルマラソン	18	35	55	59	32	8	207
	50km以上	10	3	3	2	2	0	20
	その他	7	13	0	2	1	0	23
	出場経験なし	7	14	10	9	5	0	45
合計		242	187	169	202	116	22	938



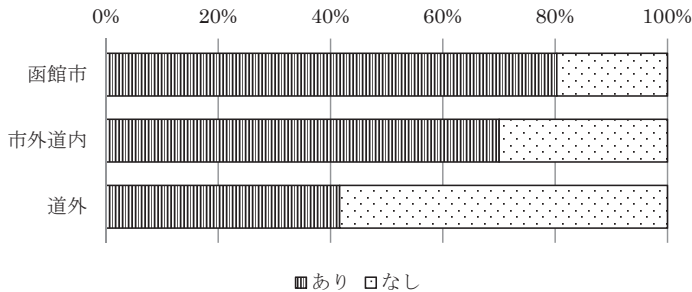
これまでの函館ハーフマラソンへの出場経験は、「これまでも出場経験あり」612人（68.5%）、「今回はじめて出場」282人（31.5%）。7割がこれまでも函館ハーフマラソンに出場した経験がある。

性別、年代による差は見られない。居住地を見ると、当然のことながら道外で出場経験がない人が多い【図表2.7】。

他都市を含めて、主に出場しているマラソンの距離は、当然のことながらハーフマラソン、フルマラソンの人で、函館ハーフマラソンに出場経験がある人が多い。

図表2.7 これまでの函館ハーフマラソンへの出場経験

		居住地			合計
		函館市	市外道内	道外	
出場経験	あり	273	264	72	609
	なし	67	113	101	281
合計		340	377	173	890



4. マラソン大会と一緒に出場した人、知った経緯、出場理由

マラソン大会と一緒に出場した人は、948人の複数回答で、「一人で」539人(56.9%)、「家族と」251人(26.5%)、「友人・知人と」313人(33.0%)、「その他」12人(1.3%)【図2.8】。一人が半数を超えている。友人・知人が1/3、家族が1/4程度である。「その他」はメディカルランナー等であった。

「一人で」は男性、道外の人が多い。年代、函館ハーフマラソンの出場経験、主に出場しているマラソンの距離による差は見られない。

マラソン大会を知った経緯は、936人の複数回答で、「ダイレクトメール」246人(26.3%)、「新聞」285人(30.4%)、「ポスター・チラシ」205人(21.9%)、「インターネット」290人(31.0%)、「ランニング関係雑誌」95人(10.1%)、「友人・知人」156人(16.6%)、「その他」88人(9.4%)。インターネットが最も多く、新聞、ダイレクトメール、ポスター・チラシが続く。「その他」は家族等であった。

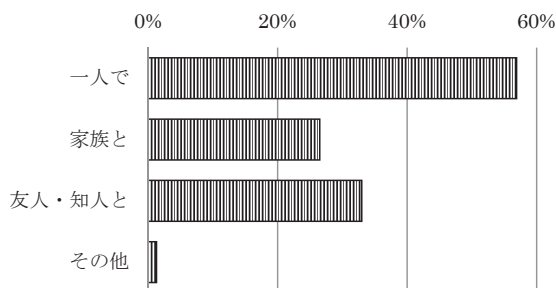


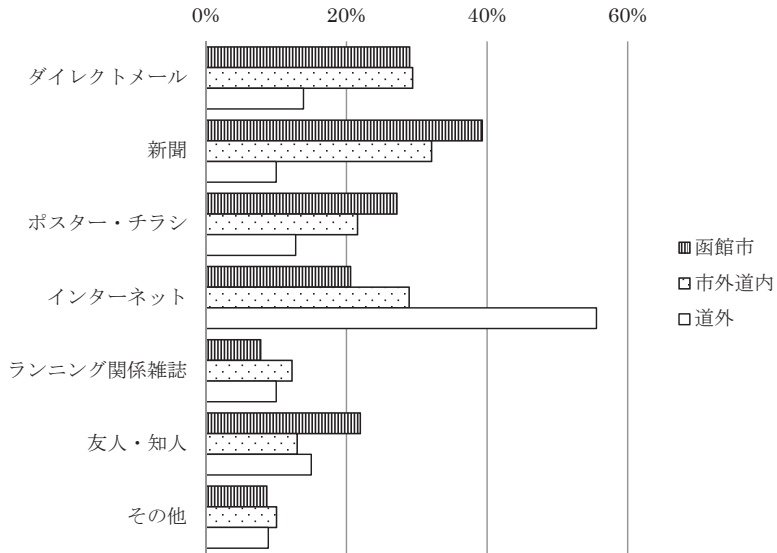
図2.8 マラソン大会と一緒に出場した人

居住地別に見ると、函館市、市外道内はダイレクトメール、新聞が多く、道外はインターネットが多い【図表2.9】。

他都市を含めて、主に出場しているマラソンの距離別に見ると、フルマラソンの人でインターネットが多い【図表2.10】。

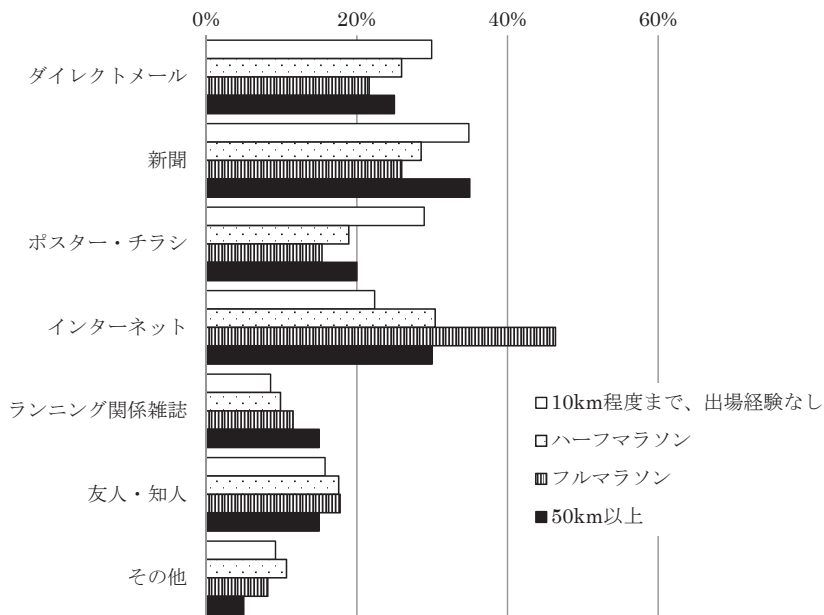
図表2.9 居住地別、マラソン大会を知った経緯

		居住地			合計
		函館市 (n=346)	市外道内 (n=408)	道外 (n=180)	
知った経緯	ダイレクトメール	100	120	25	245
	新聞	136	131	18	285
	ポスター・チラシ	94	88	23	205
	インターネット	71	118	100	289
	ランニング関係雑誌	27	50	18	95
	友人・知人	76	53	27	156
	その他	30	41	16	87



図表2.10 主に出場しているマラソン距離別、知った経緯

		主に出場しているマラソン距離				合計
		10km 程度 まで、出場 経験なし (n=304)	ハーフ マラソン (n=375)	フル マラソン (n=208)	50km 以上 (n=20)	
知った経緯	ダイレクトメール	91	97	45	5	238
	新聞	106	107	54	7	274
	ポスター・チラシ	88	71	32	4	195
	インターネット	68	114	96	6	284
	ランニング関係雑誌	26	37	24	3	90
	友人・知人	48	66	37	3	154
	その他	28	40	17	1	86

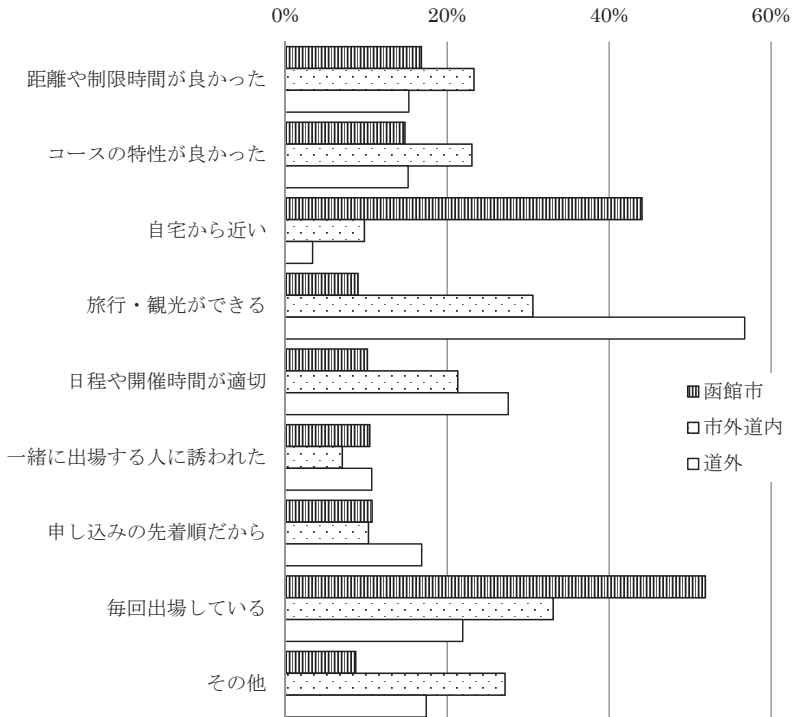


出場理由は、925人の複数回答で「距離や制限時間が良かった」178人(19.2%)、「コースの特性が良かった」170人(18.4%)、「自宅から近い」198人(21.4%)、「旅行・観光ができる」255人(27.5%)、「日程や開催時間が適切」170人(18.4%)、「一緒に出場する人に誘われた」83人(9.0%)、「大会参加が抽選でなく申込の先着順だから」108人(11.7%)、「毎回出場している」352人(38.0%)、「その他」169人(18.3%)。「毎回出場している」が4割、「旅行・観光ができる」が3割である。「その他」は応援が熱心なのが魅力、故郷だから、公認大会だから、実家が近いので帰省を兼ねて、来年のフルマラソンの下見等があった。

「旅行・観光ができる」は当然のことながら函館市民で少なく、これまでの函館ハーフマラソンへの出場経験がない人で多くなっていた【図表2.11】。主に出場しているマラソンの距離では、フルマラソン、50km以上の人が多くなっていた。

図表2.11 居住地別、出場理由

		居住地			合計
		函館市 (n=345)	市外道内 (n=398)	道外 (n=178)	
出場理由	距離や制限時間が良かった	58	93	27	178
	コースの特性が良かった	51	92	27	170
	自宅から近い	152	39	6	197
	旅行・観光ができる	31	122	101	254
	日程や開催時間が適切	35	85	49	169
	一緒に出場する人に誘われた	36	28	19	83
	申し込みの先着順だから	37	41	30	108
	毎回出場している	179	132	39	350
	その他	30	108	31	169



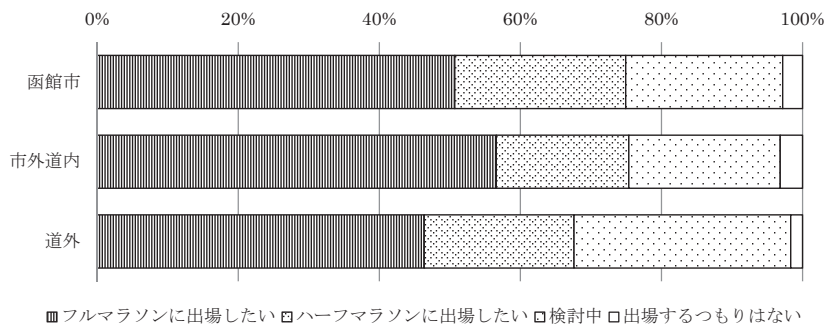
5. 来年度の函館フルマラソンへの出場意向

来年度の函館マラソン大会への出場意向は、「フルマラソンに出場したい」496人(52.3%)、「ハーフマラソンに出場したい」202人(21.3%)、「検討中」223人(23.5%)、「出場するつもりはない」27人(2.8%)。フルマラソン出場が半数、ハーフマラソン出場が2割である。

年代、居住地による差は見られない【図表2.12】。主に出場しているマラソンの距離では、当然のことながらフルマラソンの人がフルマラソン出場を希望しているが、10km程度まで、今回の大会までに出場経験がなかった人も、今回、ハーフマラソンを経験して、半数が来年のフルマラソンを目指している【図表2.13】。

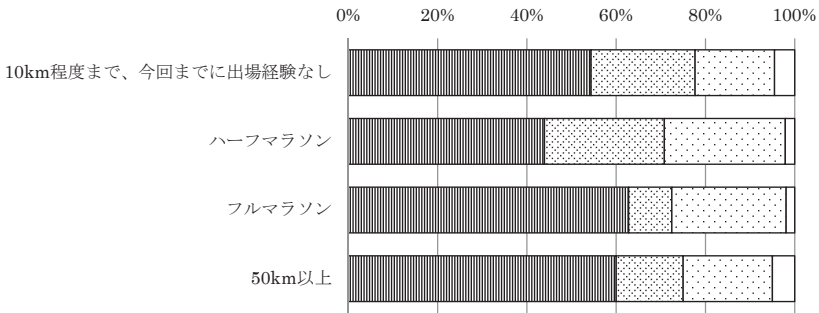
図表2.12 居住地別、来年度の出場意向

		居住地			合計
		函館市	市外道内	道外	
出場意向	フルマラソンに出場したい	180	232	83	495
	ハーフマラソンに出場したい	86	77	38	201
	検討中	79	88	55	222
	出場するつもりはない	10	13	3	26
合計		355	410	179	944



図表2.13 主に出場しているマラソン距離別、来年度の出場意向

		主に出場しているマラソン距離				合計
		10km程度まで、今回までに出場経験なし	ハーフマラソン	フルマラソン	50km以上	
出場意向	フルマラソンに出場したい	168	167	130	12	477
	ハーフマラソンに出場したい	72	102	20	3	197
	検討中	55	103	53	4	215
	出場するつもりはない	14	8	4	1	27
合計		309	380	207	20	916



■フルマラソンに出場したい □ハーフマラソンに出場したい □検討中 □出場するつもりはない

6. 出場経験のある国内・海外マラソン大会

出場経験のある国内マラソンは、879人の複数回答で「東京マラソン」163人(18.5%)、「NAHAマラソン」145人(16.5%)、「北海道マラソン」294人(33.5%)、「湘南国際マラソン」118人(13.5%)、「長野マラソン」33人(3.8%)、「かすみがうらマラソン」60人(6.9%)、「大阪マラソン」46人(5.3%)、「京都マラソン」50人(5.7%)、「その他」260人(29.6%)、「これまで国内マラソンの出場経験はない」285人(32.4%)【図2.14】。北海道マラソンが3割と最も多く、東京マラソンが2割であった。これまで国内マラソンの出場経験はない人が3割である。「その他」は千歳JALマラソン、

別海町マラソン、洞爺湖マラソン、伊達マラソン、ノーザンホースパークマラソン、奥尻ムーンライトマラソン、サロマ湖100kmウルトラマラソン、つくばマラソン、新潟シティマラソン、奈良マラソン、神戸マラソン、高知龍馬マラソン等があった。

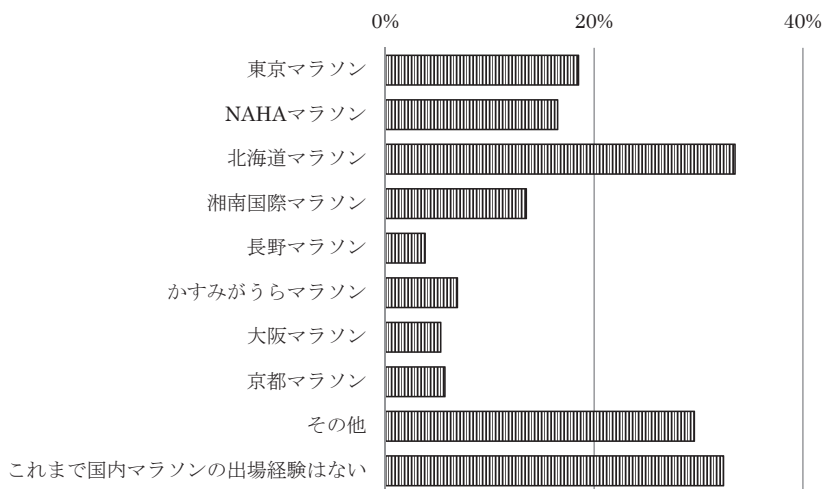


図2.14 国内マラソンの出場経験

居住地別に見ると、函館市民で東京マラソンの出場経験者が少ない。北海道マラソンは市外道内の人が多い【図表2.15】。

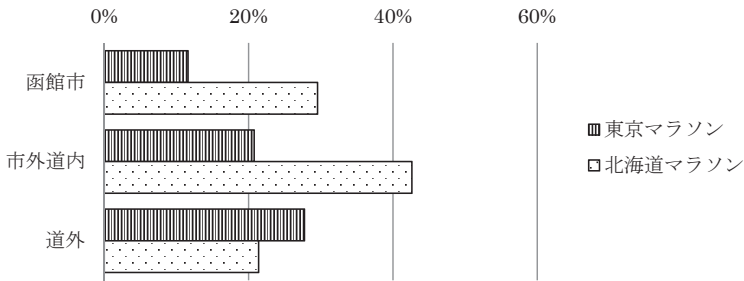
主に出場しているマラソンの距離別に見ると、フルマラソンの人で東京マラソン、北海道マラソンの出場経験者が多い【図表2.16】。

函館マラソン大会を知った経緯が「インターネット」、「ランニング関係雑誌」の人で、東京マラソンの出場経験者が多い。「インターネット」の人で、北海道マラソンの出場経験者が多い。

海外マラソンの出場経験は、「あり」66人(7.9%)、「ない」771人(92.1%)。ある人は8%である。ホノルルマラソン、プラハマラソン、メルボルンマラ

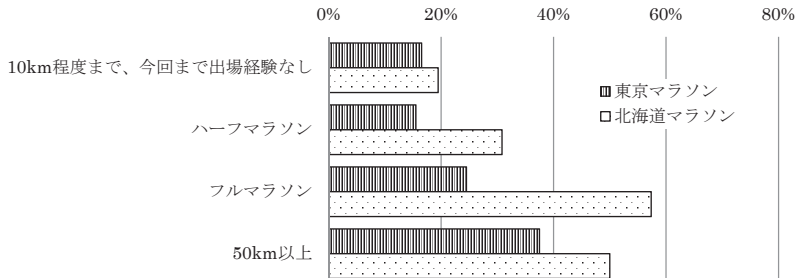
図表2.15 居住地別、国内マラソンの出場経験

		居住地合計			合計
		函館市	市外道内	道外	
出場経験のある国内マラソン	東京マラソン	39	76	48	163
	北海道マラソン	99	156	37	292



図表2.16 主に出場しているマラソン距離別、国内マラソンの出場経験

		主に出場しているマラソン距離				合計
		10km程度まで、今回まで出場経験なし (n=272)	ハーフマラソン (n=360)	フルマラソン (n=204)	50km以上 (n=16)	
出場経験のある国内マラソン	東京マラソン	45	56	50	6	157
	北海道マラソン	53	111	117	8	289



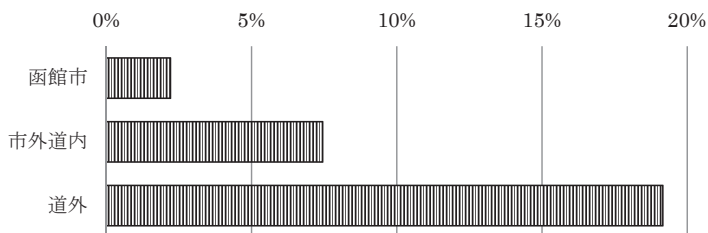
ソン、ゴールドコーストマラソン、ハワイ島・コナマラソン、高雄国際マラソン等の名前があがっていた。

道外、主に出場しているマラソンの距離がフルマラソンの人で、海外マラソンの出場経験がある人が多い【図表2.17、2.18】。

函館マラソン大会を知った経緯が「インターネット」の人、出場理由で「旅行・観光ができる」をあげている人で海外マラソンの出場経験がある人が多くなっている。

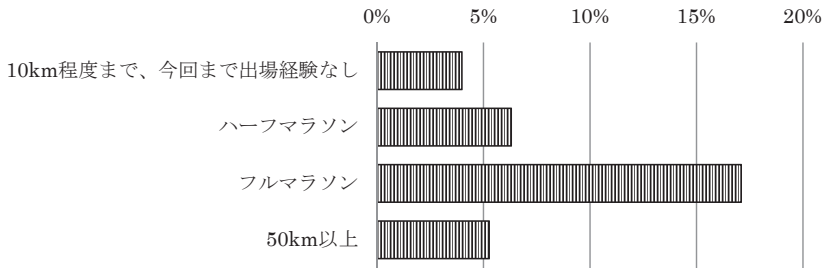
図表2.17 居住地別、海外マラソン大会への出場経験

		居住地			合計
		函館市	市外道内	道外	
海外マラソン大会への出場経験	あり	7	26	32	65
	なし	310	323	135	768
合計		317	349	167	833



図表2.18 主に出場しているマラソン距離別、海外マラソン大会への出場経験

		主に出場しているマラソン距離				合計
		10km 程度まで、今回まで出場経験なし	ハーフマラソン	フルマラソン	50km 以上	
海外マラソン大会への出場経験	あり	10	22	33	1	66
	なし	241	327	160	18	746
合計		251	349	193	19	812



7. 大会前後に訪れる観光地、宿泊先、観光情報入手先

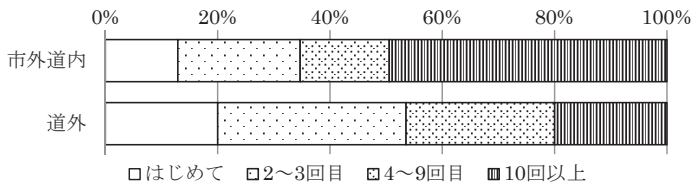
函館市民以外にこれまでに函館に来た回数は、「はじめて」66人(15.5%)、「2～3回目」111人(26.1%)、「4～9回目」84人(19.7%)、「10回以上」165人(38.7%)。「10回以上」が4割と多く、「はじめて」は2割未満である。

函館マラソン大会の出場理由で「旅行・観光ができる」をあげている人は、これまでに函館に来た回数が比較的少ない人が多い(これまで函館に来た回数が「はじめて」19.8%、「2～3回目」32.3%、「4～9回目」22.4%、「10回以上」25.5%)。

居住地別に見ると、市外道内の人で「10回以上」が半数である【図表2.19】。

図表2.19 これまでに函館に来た回数

		居住地		合計
		市外道内	道外	
これまでに函館に来た回数	はじめて	35	31	66
	2～3回目	59	52	111
	4～9回目	43	41	84
	10回以上	134	31	165
合計		271	155	426



宿泊や交通の手配は、「個人で」313人(75.8%)、「フリーバック」65人(15.7%)、「ツアー」35人(8.5%)。3/4が個人であり、ツアーは9%である【図2.20】。

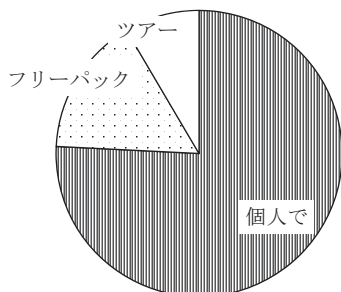


図2.20 宿泊や交通の手配

「個人で」は男性が多い。「ツアー」は30代まで、はじめて函館に来た人で比較的多い。

地元からの応援同行者を尋ねると、493人の複数回答で、「なし(一人で来た)」242人(49.1%)、「家族」173人(35.0%)、「友人・知人」83人(16.8%)、「その他」7人(1.4%)。一人で来た人が半数、家族が35%である。

応援同行者がいるのは、市外道内、女性、18～29歳または60代以上で多くなっている【図表2.21】。

これまでの函館ハーフマラソンへの出場経験による差は見られない。

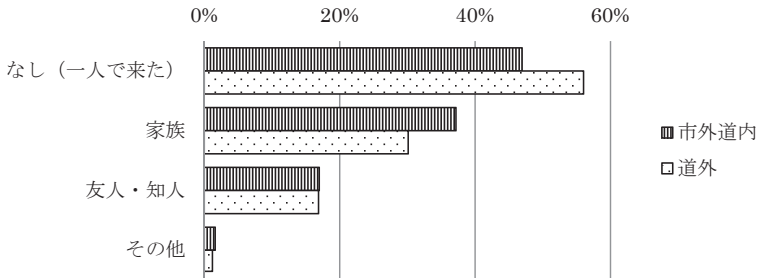
宿泊や交通の手配は、応援同行者が居る人で「ツアー」が比較的多くなっている。

大会前後に訪れる観光地は、485人の複数回答で「観光しない」181人(37.4%)、「函館市内及び大沼公園」265人(54.6%)、「函館以外の北海道」31人(6.4%)、「その他」48人(9.9%)。6割の人が観光しており、その多くが函館市内及び大沼公園である。

女性、道外の人の方が観光している【図表2.22】。年代による差は見られない。

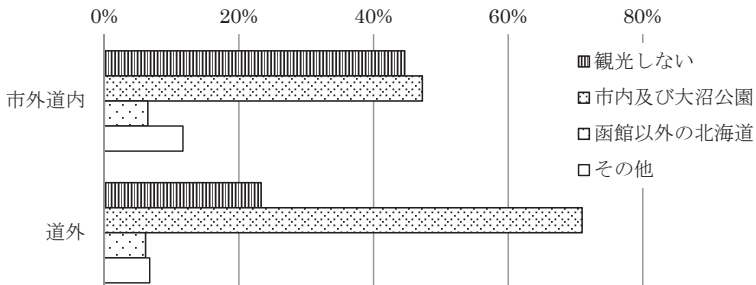
図表2.21 地元からの応援同行者

		居住地		合計
		市外道内 (n=310)	道外 (n=166)	
応援 同行者	なし（一人で来た）	146	93	239
	家族	116	50	166
	友人・知人	53	28	81
	その他	5	2	7



図表2.22 大会前後に訪れる観光地

		居住地		合計
		市外道内 (n=308)	道外 (n=163)	
大会前後 に訪れる 観光地	観光しない	137	38	175
	市内及び大沼公園	146	115	261
	函館以外の北海道	20	10	30
	その他	36	11	47



地元からの応援同行者が居る人の方が観光している。出場理由で「旅行・観光ができる」をあげている人で観光している人が多い。宿泊や交通の手配が「ツアー」の人は「函館市内及び大沼公園」観光をしている。

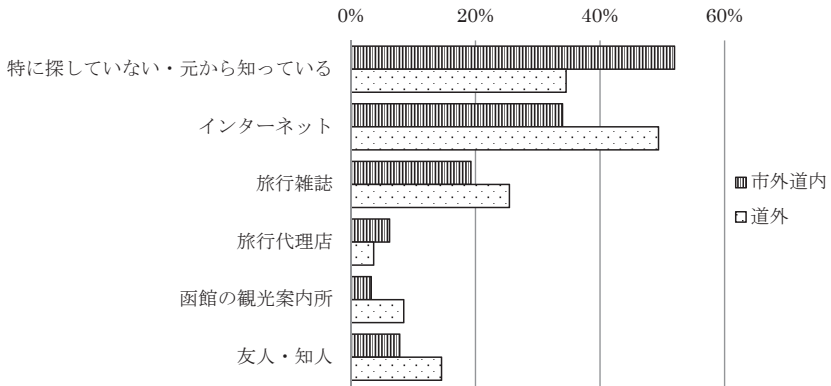
函館市外まで足を延ばす「函館以外の北海道」の観光は、性別、年代、居住地、地元からの応援同行者による差は見られない。

函館のまちや観光情報の入手先は、486人の複数回答で「特に探していない・元から知っている」222人(45.7%)、「インターネット」189人(39.0%)、「旅行雑誌」103人(21.2%)、「旅行代理店」25人(5.2%)、「函館の旅行案内所」24人(4.9%)、「友人・知人」48人(9.9%)、「その他」8人(1.6%)。「特に探していない・元から知っている」が半数近いが、「インターネット」が4割、「旅行雑誌」が2割である。「その他」にはタクシーの運転手、宿泊施設、家族等があった。

性別による差は見られない。市外道内で「特に探していない・元から知っている」、道外で「インターネット」が多い【図表2.23】。「インターネット」と「旅行雑誌」は函館にはじめて来る人、出場理由で「旅行・観光ができる」をあげている人が多い。

図表2.23 函館のまちや観光情報の入手先

		居住地		合計
		市外道内 (n=306)	道外 (n=165)	
函館のまちや観光情報の入手先	特に探していない・元から知っている	159	57	216
	インターネット	104	81	185
	旅行雑誌	59	42	101
	旅行代理店	19	6	25
	函館の観光案内所	10	14	24
	友人・知人	24	24	48

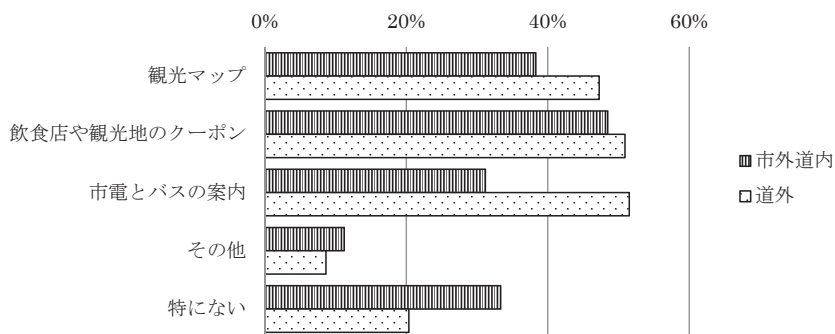


事前にゼッケン等を送付した際にあれば良かったと思うものは、477人の複数回答で「観光マップ」194人(41.0%)、「飲食店や観光地のクーポン」231人(48.8%)、「市電やバスの案内」180人(38.1%)、「その他」48人(10.1%)、「特にない」137人(29.2%)。「飲食店や観光地のクーポン」が半数、「観光マップ」が4割であった。「その他」には交通規制マップ、駐車場の案内、温泉の案内、荷物預かり札等であった。

「観光マップ」は女性、道外、これまでに函館来た回数が少ない人で多く【図表2.24】、出場理由で「旅行・観光ができる」をあげている人で多くなっている。年代による差は見られない。宿泊や交通の手配が「フリーバック」、「ツアー」の人で多くなっている。

図表2.24 事前にゼッケン等を送付した際にあれば良かったと思うもの

		居住地		合計
		市外道内 (n=294)	道外 (n=162)	
事前にゼッケン等を送付した際にあれば良かったと思うもの	観光マップ	113	78	191
	飲食店や観光地のクーポン	143	84	227
	市電とバスの案内	92	85	177
	その他	33	14	47
	特にない	98	33	131
	友人・知人	24	24	48



「飲食店や観光地のクーポン」は、出場理由で「旅行・観光ができる」をあげている人で多くなっている。

「市電やバスの案内」は道外、地元からの応援同行者がいない人、出場理由で「旅行・観光ができる」をあげている人で多くなっている。

大会前後の函館市内での宿泊は、「宿泊していない」91人(21.6%)、「前泊した」220人(52.3%)、「後泊した」4人(1.0%)、「前後泊した」106人(25.2%)。8割が宿泊しており、前泊が半数、前後泊が1/4である。3泊以上しているのは25人(4.7%)であり、大会前後のみに宿泊した人が多い。

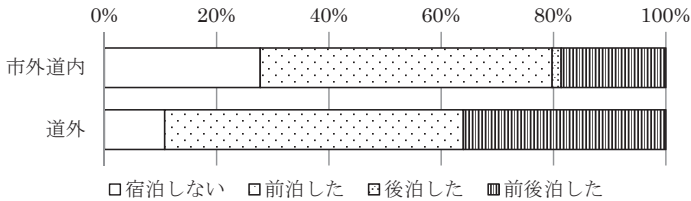
道外の方は9割が宿泊している【図表2.25】。

宿泊先は388人の複数回答で「湯の川」84人(21.6%)、「函館駅前」130人(33.6%)、「バイエリア」36人(9.3%)、「五稜郭周辺」108人(28.1%)、「その他」80人(20.6%)。函館駅前、五稜郭周辺、湯の川の順である。「その他」は実家、友人宅、職場、車中泊、列車内等があった。

大会前後に函館市内で宿泊している人は、観光しており、特に後泊している人が多い【図表2.26】。

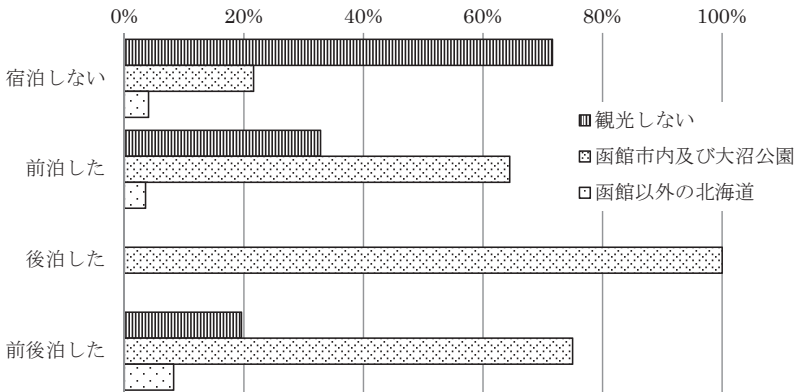
図表2.25 大会前後の函館市内での宿泊

		居住地		合計
		市外道内	道外	
大会前後の市内での宿泊	宿泊しない	70	17	87
	前泊した	131	84	215
	後泊した	4	0	4
	前後泊した	47	57	104
合計		252	158	410



図表2.26 大会前後の函館市内での宿泊別、大会前後に訪れる観光地

		大会前後の函館市内での宿泊				合計
		宿泊しない (n=74)	前泊した (n=197)	後泊した (n=4)	前後泊した (n=97)	
大会前後に訪れる観光地	観光しない	53	64	0	19	136
	函館市内及び大沼公園	16	127	4	72	219
	函館以外の北海道	3	7	0	8	18



8. まとめ

マラソン大会を知った経緯は、函館市や市外道内はダイレクトメール、新聞が多く、道外はインターネットが多い。主に出場しているマラソンの距離別に見ると、フルマラソンの人でインターネットが多い。道外やフルマラソン出場者にインターネットが活用されていることがわかる。

7割がこれまでも函館ハーフマラソンに出場した経験があり、リピーターも多いことがわかる。

今回、函館ハーフマラソン大会に出場した人の主に出場しているマラソン距離を見ると、10km程度までと出場経験がない人、つまりこの機会にハーフマラソンに挑戦した人が3割であった。普段からハーフマラソンに出場している人が4割、フルマラソンが2割ある。

来年度の函館マラソン大会への出場意向は、フルマラソンへの出場希望が半数、ハーフマラソンへの出場希望が2割である。フルマラソンについては、当然のことながら普段からフルマラソンに出ている人が出場を希望しているが、10km程度まで、今回の大会までに出場経験がなかった人も、今回、函館ハーフマラソンを経験して、半数が来年のフルマラソンを目指している。

出場経験のある他の国内マラソンは、北海道マラソンが3割と最も多く、東京マラソンが2割であった。これまで国内マラソンの出場経験はない人が3割である。函館マラソンは東京マラソンの提携大会になっているが、東京マラソンの出場経験者は少なく、特に函館市民で少ない。北海道マラソンは市外道内の人が多く、近郊のマラソン大会に出場していると考えられる。

海外マラソンの出場経験がある人は8%である。こちらも比較的少なく、道外や、主に出場しているマラソンの距離がフルマラソンの人で、海外マラソンの出場経験がある人が多くなっていた。

函館市民以外のこれまでに函館に来た回数は「10回以上」が4割と多く、「はじめて」は2割未満である。比較的何度も函館を訪れている人が出場している。

このうち3割の人が「旅行・観光ができる」という理由で函館マラソンを

選んでいる。主に出場しているマラソンの距離では、フルマラソン、50km以上の人で多くなっていた。フルマラソン等の大会を中心に、各地へ旅行・観光を兼ねた出場をしている人がいることが推測される。普段、フルマラソンに出場している人はインターネット等でマラソン大会の情報を得ており、インターネット等を通じて旅行や観光とセットでマラソン大会のPRをしていくことが有効と考えられる。

大会前後に6割の人が観光しており、その多くが函館市内及び大沼公園である。居住地による差は見られず、道外の人も函館近郊の観光にとどまっていることがわかる。

特に函館近郊の出場者を中心に、4割以上の人が友人や家族等と一緒に出場しており、半数近い人に地元からの応援同行者がいる。地元からの応援同行者がいる人の方が観光しており、出場者一人のみならず、一緒に出場する人、応援同行者がマラソン大会を機に観光していることがわかる。

宿泊や交通の手配は3/4が個人であり、ツアーは9%である。応援同行者が居る人で「ツアー」が比較的多く、「ツアー」の人は「函館市内及び大沼公園」観光をしている。ツアーが設定されることによって、応援同行者等と一緒に函館を訪れ、観光するようになっているとも考えられる。ツアー利用者は現在わずかであるが、積極的なツアー設定に向けた旅行会社等への働きかけが求められる。

大会前後の函館市内での宿泊は8割が宿泊しており、前泊が半数、前後泊が1/4である。3泊以上しているのは5%であり、大会前後のみに宿泊した人が多い。大会前後に函館市内で宿泊している人は観光しており、観光に特に有意義なのは後泊である。マラソン大会の後夜祭等、後泊の促進策が求められる。

函館のまちや観光情報の入手先は「特に探していない・元から知っている」が半数近いが、「インターネット」が4割、「旅行雑誌」が2割である。事前にゼッケン等を送付した際にあれば良かったと思うものは「飲食店や観光地のクー

ポン」が半数、「観光マップ」が4割であった。インターネット等が観光にも活用されており、クーポンや観光マップの配布が求められる。

Ⅲ. リゾート地型：奥尻ムーンライトマラソン出場者調査

1. 調査方法

奥尻は北海道の離島であり、年間3万人の観光客が訪れる。奇岩群、釣りや海水浴のマリンレジャー、魚介グルメ等が有名である。ムーンライトマラソンの名称の通り、フルマラソンは15:00にスタートして制限時間6時間、ハーフマラソンは17:00にスタートして制限時間4時間である。コースは海沿いで、鍋釣岩等の海の風景を見ることができる。

2015年6月、奥尻ムーンライトマラソン出場者に対してアンケート調査を行った。事前にゼッケン等を送付する際にアンケート用紙を同封し、後日、記入の上、郵送で返送してもらった。

調査項目は回答者基本属性（性別、年代、居住地）、同行者、知った経緯、出場理由、マラソンコース及び前夜祭・後夜祭等の満足度、これまでの国内・海外マラソン大会への参加経験、大会前後に訪れる観光地、宿泊等である。

2. 回答者基本属性

出場者348人、回収数84人、回収率24.1%。

男性43人（51.2%）、女性41人（48.8%）【図3.1】。男女同じくらいずつである。

年代は、18～29歳4人（4.8%）、30代9人（10.7%）、40代28人（33.3%）、50代25人（29.8%）、60代7人（8.3%）、70歳以上11人（13.1%）【図3.2】。40代、50代がそれぞれ3割であり、幅広い年代にわたっている。

居住地は、奥尻町6人（7.4%）、奥尻町以外の道南（渡島・檜山支庁管内）28人（34.5%）、道南以外の北海道28人（34.6%）、北海道以外19人（23.5%）【図

3.3】。道南以外の北海道は、道央（石狩・空知・胆振・日高・後志支庁管内）25人、道東（網走・十勝・釧路・根室支庁管内）1人、道北（上川・留萌・宗谷支庁管内）2人。北海道以外は関東16人、中部・北陸2人、中国・四国1人。

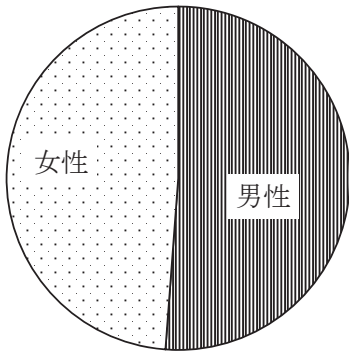


図3.1 性別

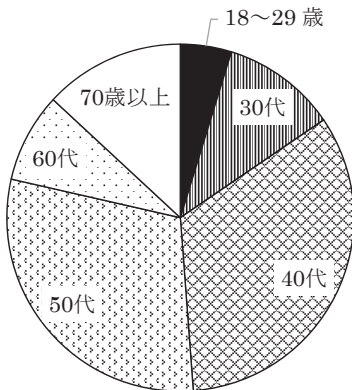


図3.2 年代

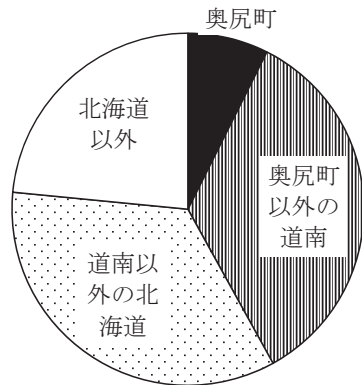


図3.3 居住地

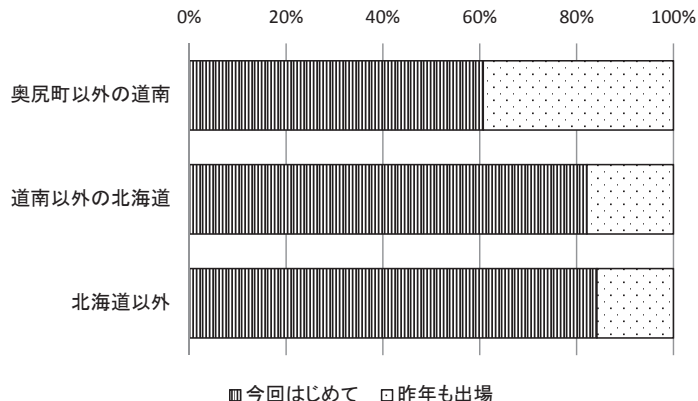
3. 奥尻ムーンライトマラソンへの出場

出場したマラソンは、ハーフマラソン68人、フルマラソン16人。

奥尻ムーンライトマラソンへの出場は、「今回はじめて」60人(71.4%)、「昨年も出場した」24人(28.6%)。昨年も出場しているリピーターが3割近い。居住地別に見ると、奥尻町と奥尻町以外の道南が多いが、北海道以外の人もある【図表3.4】。

図表3.4 昨年の奥尻ムーンライトマラソンへの出場

		居住地				合計
		奥尻町	奥尻町以外の道南	道南以外の北海道	北海道以外	
去年の奥尻ムーンライトマラソンへの出場経験	今回はじめて	3	17	23	16	59
	昨年も出場	3	11	5	3	22
合計		6	28	28	19	81

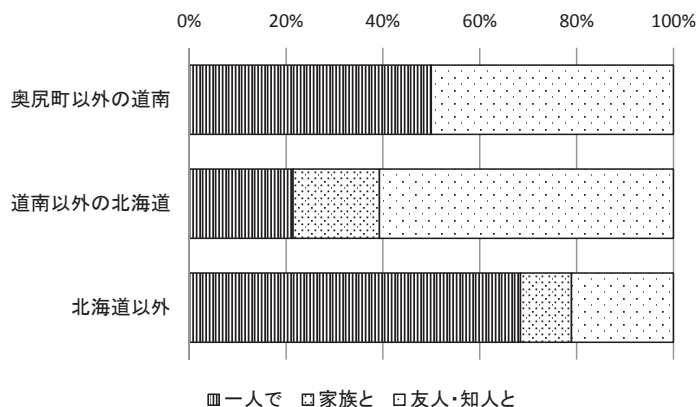


今回、一緒に出場した人は「一人で」38人(45.2%)、「家族と」7人(8.3%)、「友人・知人と」39人(46.4%)。友人・知人が半数であり、一人が同じくらいある。

居住地別に見ると、奥尻町以外の道南、道南以外の北海道で「友人・知人と」が多く【図表3.5】、今年のはじめての人で「友人・知人と」が多い。

図表3.5 今回、一緒に出場した人

		居住地				合計
		奥尻町	奥尻町以外の道南	道南以外の北海道	北海道以外	
一緒に出場した人	一人で	4	14	6	13	37
	家族と	0	0	5	2	7
	友人・知人と	2	14	17	4	37
合計		6	28	28	19	81

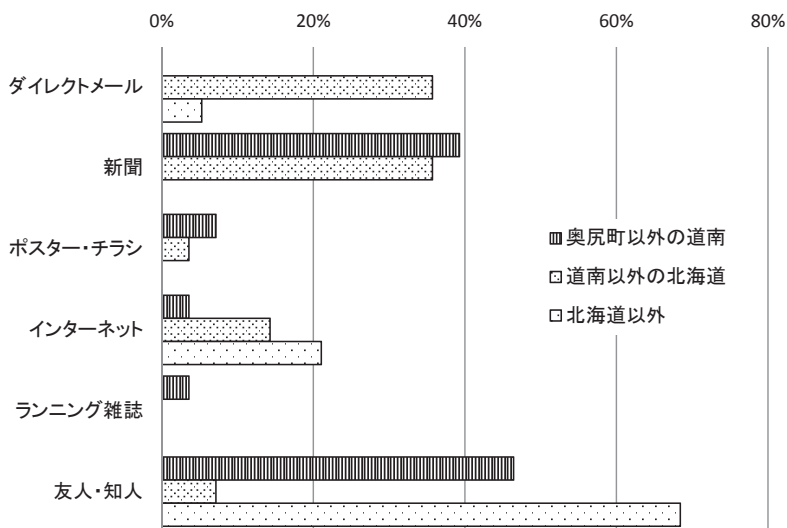


知った経緯は複数回答で「ダイレクトメール」11人(13.1%)、「新聞」21人(25.0%)、「ポスター・チラシ」6人(7.1%)、「インターネット」10人(11.9%)、「ランニング関係雑誌」1人(1.2%)、「友人・知人」32人(38.1%)、「その他」3人(3.6%)。「その他」は昨年参加、「ムーンライトマラソン」のライセンス契約をしている他のムーンライトマラソンであった。

居住地別に見ると、奥尻町以外の道南は友人・知人と新聞が多く、道南以外の北海道はダイレクトメールと新聞、北海道以外は友人・知人が多い【図表3.6】。昨年も出場した人は新聞が多く、「今回はじめて」出場する人は友人・知人が多い。

図表3.6 知った経緯

		居住地				合計
		奥尻町 n=6	奥尻町以 外の道南 n=28	道南以外 の北海道 n=28	北海道 以外 n=19	
知った 経緯	ダイレクトメール	0	0	10	1	11
	新聞	0	11	10	0	21
	ポスター・チラシ	3	2	1	0	6
	インターネット	0	1	4	4	9
	ランニング雑誌	0	1	0	0	1
	友人・知人	3	13	2	13	31
	その他	0	0	1	1	2



出場理由は複数回答で「距離や制限時間が良かった」7人 (8.3%)、「コースの特性が良かった」5人 (6.0%)、「自宅から近い」4人 (4.8%)、「旅行・観光ができる」41人 (48.8%)、「日程や開催時間が適切」13人 (15.5%)、「一緒に出場する人から誘われた」6人 (7.1%)、「その他」8人 (9.5%)【図3.7】。

「旅行・観光ができる」が半数である。「その他」は、奥尻島が好き、離島を中心に走っている、夕方からスタートするマラソンがおもしろそうだった、まちおこしに協力したい等があった。

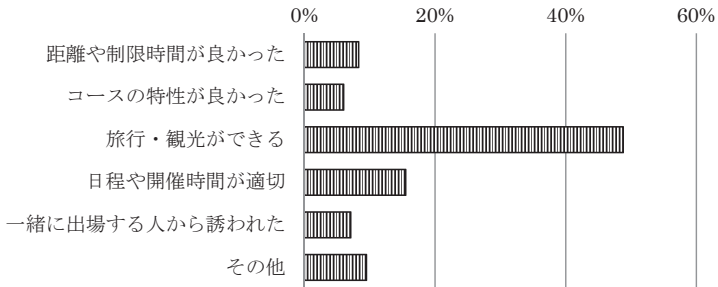


図3.7 出場理由

4. マラソン大会・前夜祭・後夜祭等の満足度

マラソンのコースについて、「とても良かった」29人 (34.5%)、「良かった」50人 (59.5%)、「普通」4人 (4.8%)、「悪かった」1人 (1.2%)【図3.8】。ハーフマラソンとフルマラソンで違いは見られない。

意見を見ると、風景とともに沿道の応援の評価が高い。コースについては起伏等が評価されている一方で、距離表示、折り返し地点等について意見があがっている【資料3.9】。

前夜祭・後夜祭のアトラクションについて、「とても良かった」28人 (33.7%)、「良かった」43人 (51.8%)、「普通」10人 (12.0%)、「悪かった」2人 (2.4%)【図3.8】。男性、50代で「とても良かった」が比較的多い。

意見を見ると、子どもの踊り、物まねショー等の地元の人による取り組みが印象に残っているようである【資料3.10】。

前夜祭・後夜祭の食べ物・飲み物について、「とても良かった」31人 (36.9%)、「良かった」35人 (41.7%)、「普通」4人 (4.8%)、「悪かった」

14人(16.7%)【図3.8】。男性は良いと悪いに評価がわかれており、70代で悪かったが多い。

意見を見ると、魚介類等の地元の食材を利用した料理の評価が高く、地元産のワインを求める声もある。悪天候で寒かったため暖かい料理が求められている【資料3.11】。

奥尻島の滞在について、「とても良かった」39人(47.6%)、「良かった」35人(42.7%)、「普通」6人(7.3%)、「悪かった」2人(2.4%)【図3.8】。男性・女性で差はなく、50代、道南以外の北海道、北海道以外の人の評価が高い。

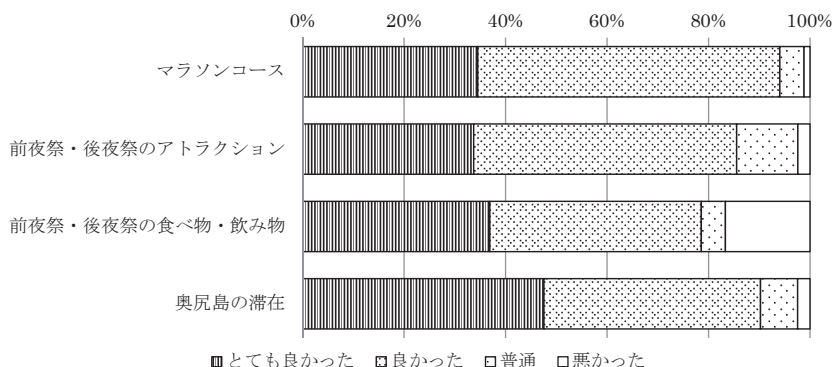


図3.8 満足度

意見を見ると、民宿のアットホームなもてなしに対する評価が高い。温泉や観光については意見があがっており改善が求められる【資料3.12】。

一般的に大会の満足度は高い。意見を見ると、地元の歓迎ムード、全力での応援、民宿をはじめとする親切な対応が評価され、マラソンや前夜祭・後夜祭を含む滞在全体を通じたもてなし、ふれあいが印象に残ったようである。マラソンだけでなく、今後も訪れたいという声があがっている【資料3.13】。

来年度の奥尻ムーンライトマラソンへの参加意向は、「参加したい」62人(73.8%)、「参加しない」10人(11.9%)、「どちらともいえない」12人(14.3%)。参加したいが7割を超えている。

資料3.9 マラソンコースに対する意見 ※一部抜粋

【風景等】

「景色が良い」

「海沿いを走れたから」

「海風にあたって走行できる」

「海や漁火が良いですね、雨だったけど」

「天気が悪かったので夕焼けが見られなかった」

「海岸線できついけど、宮津弁天宮や鍋釣岩など観光名所がもりこまれている」

【沿道の応援】

「皆様が暖かい」

「雨風寒い中、暖かい応援がうれしかった」

「雨と風の中で皆さんのあたたかい声援とハイタッチ、大漁旗を振って応援してもらいました。すごくうれしかったです」

「島民の方々とふれあえた」

「沿道の応援がすばらしい」

「島民あげての努力あって、私達ランナーが走ることができる」

「青苗入ってからゴール手前まで応援がなく、他地域との差を感じた」、

【コース】

「一直線で走りやすかった」(ハーフマラソン)

「ゴール手前で折り返しがきつかった。昨年のコース設定の方が走りやすかった」
(フルマラソン)

「高低差がなく走りやすかった」

「適度なアップダウンであきない」

「自然な起伏に富んでいて面白かった」

「距離表示の間隔がもっと短い方が良い」

「途中、何 km か尋ねると、答えられないスタッフがいたので困った」

「給水所のコップの間隔がせまくて取りづらかった」

「最後の暗い道での折返しは、ゴールの声が聞こえている中で印象が悪いので、折り返さないでゴールに向かう道を考えて欲しい」(フルマラソン)

「青苗地区をもう少し回りたかった」

「最後の折り返しが少し良くなかった」

「フルマラソンにこだわらず、奥尻1周コース等希望」

資料3.10 前夜祭・後夜祭のアトラクションに対する意見 ※一部抜粋

【内容】

「前夜祭のよさこいソーランが良かった」

「子どもたちのよさこいにいやされた」

「地元の子供たちのアトラクションは良かった」

「餅まき good」

「後夜祭の物まねショー最高」

「歌と物まねの楽しさで筋肉痛を忘れました」

「ものまね歌手ももりあがり良かった」

「特に島民の方たちの演目に感動しました」

「川内選手は明るくてやさしくて、本当に市民ランナーのあこがれでした」

「とてもアットホームで良かった」

「前夜祭のアトラクションは音楽も踊りも良かった、後夜祭も楽しめた」

「前夜祭は良かったが、後夜祭の物まねショーは地元の人向けだった」

「後夜祭ではもう少し静かにくつろぎたかった」

「うにまるくん（奥尻町のマスコット）をもっと出すべきだ。会い損ねた」

「後夜祭のゲストライブはいらないのでは」

「ステージの前の方だけで盛り上がり、乗り切れず、皆と一緒に歌ったりできるとうれしい」

【設備等】

「後夜祭で座れるところがない」

「毛布があって良かったです」

「寒さ対策にかけている。炭をもやすドラムカンが少なかったり、毛布の宣伝が不足」

「寒かったのでほとんど見なかった」

資料3.11 前夜祭・後夜祭の食べ物・飲み物に対する意見 ※一部抜粋

【料理】

- 「食べ物がおいしかった」
- 「昨年の問題点改善したんですね、アワビおいしかった」
- 「うに鍋が絶品だった」
- 「うに汁がとても美味しかったです」
- 「ウニ、アワビの入った鍋、すごくおいしかったです」
- 「うに、あわびサイコー」
- 「海産物がおいしかった」
- 「地元の新鮮な魚介を十分に堪能した」
- 「奥尻らしい食材がすばらしかったです」
- 「アスパラ、ワイン、豚、魚、どれもおいしかった」
- 「後夜祭のポーク丼は食べづらかった」
- 「少なかった。もっと海の幸を着たいしていた」

【チケット制】

- 「それぞれに配布されて良かった」
- 「前は私のようなゆっくりゴール組は後夜祭で食べ物がなかったが、今回はチケット制で安心して走れました」
- 「食券制は非常に良かった」
- 「食券方式になって、食べ物、飲み物が平等にいきわたるようになり良かったです」

【料理の暖かさ】

- 「焼き物が全員食べられたのは良かったが、冷えていたのはNG」
- 「焼き物が冷えておいしくなかった」
- 「焼き物がわめていた」
- 「鍋物は冷たく良くない」
- 「人数が多く準備が大変と思いますが、焼き物はあたたかいともっとうれしかった」

【飲み物】

- 「ソフトドリンクの種類を増やして欲しい、コーラは要らない」
- 「雨と風で寒かったので、暖かい飲み物も欲しかったです」
- 「前夜祭のロゼは良かった」
- 「いろいろな奥尻ワインを飲めるようになることを期待しています」

資料3.12 奥尻島の滞在について ※一部抜粋

【民宿のもてなし】

「民宿がすごく良かった」

「2泊3日だったが民宿がとってもアットホームで楽しかった」

「宿の料理が良かった」

「民宿のおかみさんのもてなしがうれしかった」

「民宿の応対、食事がすごく良かった」

「暖かさが伝わり、また行きたいと思いました。旅館のお母さん、ありがとう」

「あたたかなお父さん、お母さんに心づくしのもてなしをいただきました」

「民宿で最高のもてなしを受けて感動、感謝、応援もしてもらいました」

「民宿のもてなし、料理が大変満足」

「民宿のおじさん・おばさんがとても親切だった。車で会場や翌朝フェリーまでも車で送迎してくれた」

【温泉サービス】

「温泉につかる時間ももっと欲しい」

「無料で温泉を利用できてとても良かったが、バスが遅れて10分くらいしか時間がなかったので、もっと時間を多めにとって欲しい」

「緑館の温泉にも入れる入浴券があるとうれしい」

「温泉の入浴券をいただきましたが、ゴール後、へろへろで入浴できませんでした。土日有効にしていきたいと思いました」。

【観光】

「マラソン当日の午前中から一周はしたけれど、結構暇になった。イベントをして欲しい」

「参加前の通知に観光モデルコースがあったのは良かった」

「空港のそばに土産物屋がないので、空港近くの民宿に宿泊していた人たちが土産の購入に困っていた」

「ツアーの中で北海道南西沖地震の歴史を伝える津波館に感動しました」

「地酒の販売をして欲しい、売り切れだった」

「前夜祭・後夜祭のシャトルバス内で観光ガイドをしてあげると滞在中の観光促進につながるのではないか」

資料3.13 全般的に ※一部抜粋

【マラソン大会】

「素敵な大会ですね、ずっと続けて欲しいです」

「大変努力をされており、天気が良いことを祈ってます」

「昨年よりも良くなったと思います。今後よりすばらしい大会にして欲しいです」

「海の幸を食べるだけでも行く価値あり、大変気に入りました」

「数えきれないほど親切にしてくださいました。心がやさしくなれるマラソン大会を体験しました」

「ムーンライトマラソンの言葉にハートを射抜かれました。出場を決意して、一年越しの夢がかない感無量です」

「あたたかくよい思い出になりました」

【協力体制】

「雨の中の島人の応援に感動した」

「雨の中、島の方が傘さして外で応援、窓をあけて、車の中からと応援してくれたことに感動しました」

「コースでの応援、コース確保のために立ってくださったかたにお礼申し上げます」

「良い印象ばかりです、雨の中の子どものたちやお年寄りの方たち、応援、お手伝い本当にありがとうございました」

「沿道の皆さんの応援にとってもはげまされました。とてもうれしかったです」

「島の人が皆、ランナーを歓迎する気持ちであふれていた」

「応援してくださる方が全力で応援してくださいました。一生懸命歓迎しようとする気持ちが伝わってきた」

【今後の奥尻島滞在】

「事情が許せばゆっくり滞在し、釣り等を楽しみたいです」

「交通機関の制約からゆっくり滞在できず残念」

「奥尻島は雄大で自然いっぱいの心温まる島でした」

「来年は家族も連れて来たいので、接待の質を落とさないでください」

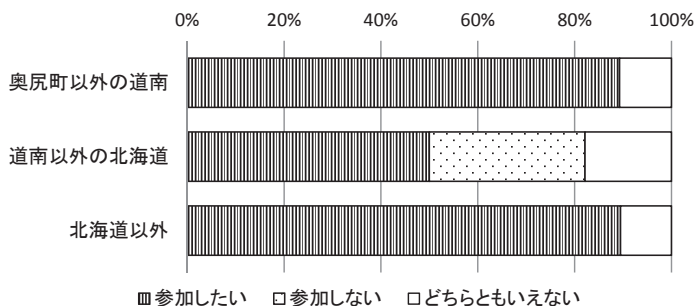
「今度は夏に来て、海にも入ってみたいと思います」

居住地別に見ると「参加したい」は奥尻町以外の道南、北海道以外が多い【図表3.14】。女性が多く、50代で少なくなっている。

マラソンのコースで「とても良かった」人で。来年も参加したい人が多い。奥尻島の滞在の評価によってあまり差は見られない。

図表3.14 来年度の奥尻ムーンライトマラソンへの参加意向

		居住地				合計
		奥尻町	奥尻町以外の道南	道南以外の北海道	北海道以外	
来年度の奥尻ムーンライトマラソンへの参加	参加したい	4	25	14	17	60
	参加しない	1	0	9	0	10
	どちらともいえない	1	3	5	2	11
合計		6	28	28	19	81



5. これまでの国内・海外マラソンの出場経験

これまでに出場したことがある国内マラソンは、82人の複数回答で「東京マラソン」13人(15.9%)、「NAHAマラソン」15人(18.3%)、「北海道マラソン」29人(35.4%)、「湘南国際マラソン」11人(13.4%)、「長野マラソン」3人(3.7%)、「かすみがうらマラソン」14人(17.1%)、「大阪マラソン」10人(12.2%)、「京都マラソン」1人(1.2%)、「函館マラソン」29人(35.4%)、「その他」41人(50.0%)、「これまで国内マラソンの出場経験はない」22人(26.8%)【図3.15】。7割は何らかの国内マラソンに出

場した経験がある。「その他」は千歳JAL国際マラソン、洞爺湖マラソン、ヨロンマラソン等であった。

海外マラソンは「出場経験あり」23人(29.5%)、「なし」55人(70.5%)。3割は海外マラソンに出場した経験がある【図3.16】。出場したマラソン大会はホノルルマラソン、台北マラソン等であった。

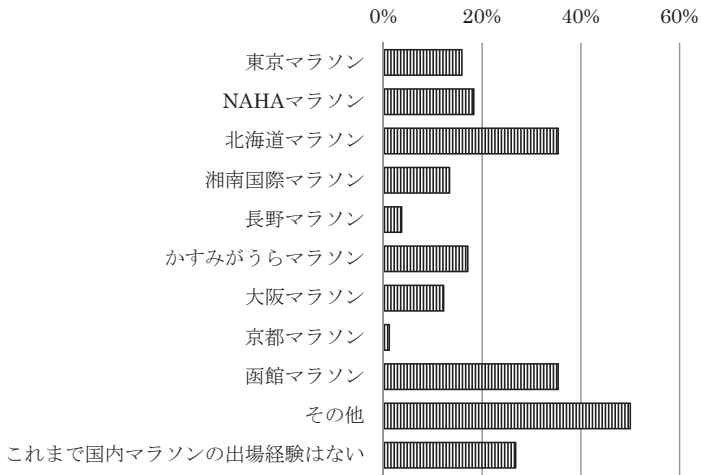


図3.15 出場したことがある国内マラソン

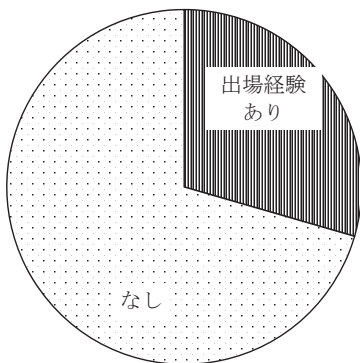


図3.16 海外マラソンへの出場経験

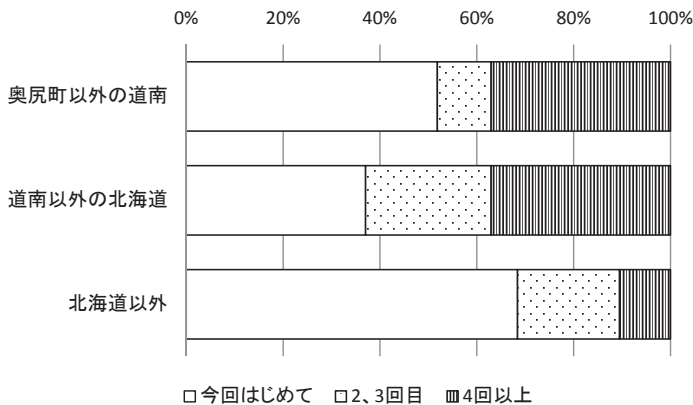
6. 奥尻町以外の人々の観光

奥尻町以外の人々の奥尻島に来た経験は「今回はじめて」38人(49.4%)、「2、3回目」16人(20.8%)、「4回以上」23人(29.9%)。道南も半数が「今回はじめて」である【図表3.17】。

ちなみに北海道以外の人々の北海道に来た経験は「今回はじめて」1人、「2、3回目」0人、「4回以上」18人。

図表3.17 奥尻島に来た回数

		居住地			合計
		奥尻町以外の道南	道南以外の北海道	北海道以外	
奥尻島に来た回数	今回はじめて	14	10	13	37
	2、3回目	3	7	4	14
	4回以上	10	10	2	22
合計		27	27	19	73



大会前後に奥尻島で訪れた観光地は、78人の複数回答で「復興の森」1人(1.3%)、「宮津弁天宮」13人(16.7%)、「賽の河原」16人(20.5%)、「球島山」4人(5.1%)、「鍋釣岩」29人(37.2%)、「うにまる公園」18人(23.1%)、「徳洋記念公園」13人(16.7%)、「奥尻津波館」26人(33.3%)、「西海岸(無縁島・

ホヤ岩・モツ立岩・カブト岩等) 18人 (23.1%)、「その他」31人 (39.7%)、「いずれにも行かない」19人 (24.4%)【図3.18】。「鍋釣岩」、「奥尻津波館」が3割を超えており、「うにまる公園」、「賽の河原」が続く。「その他」は奥尻ワイナリー等であった。

奥尻島にはじめて来た人の多くは、奥尻島のいずれかの観光地を訪れている【表3.19】。

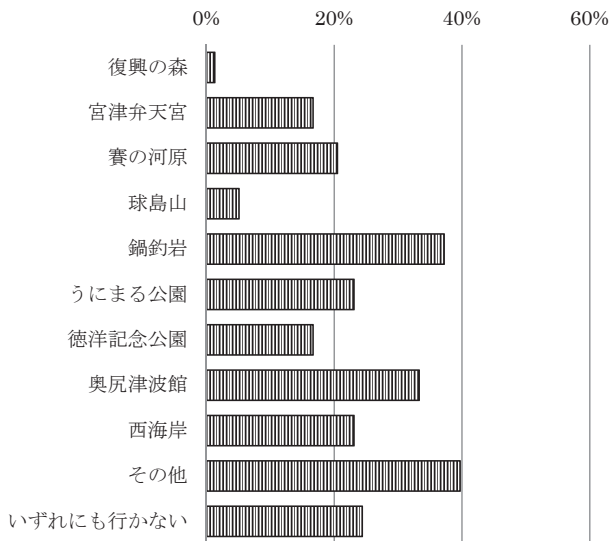


図3.18 奥尻島で訪れた観光地

表3.19 奥尻島に来た回数別、奥尻島で訪れた観光地

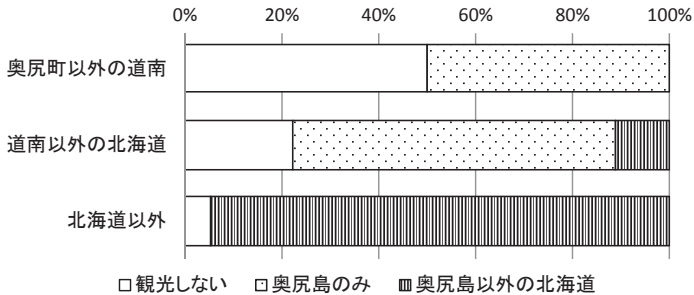
		奥尻島に来た経験			合計
		今回 はじめて	2、3回目	4回以上	
奥尻島で訪れた観光地	いずれかの観光地を訪れた	35	11	13	59
	観光地に行かない	3	4	10	17
合計		38	15	23	76

奥尻島以外に訪れる観光地は「観光しない」22人(28.2%)、「奥尻島のみ」33人(42.3%)、「奥尻島以外の北海道」23人(29.5%)、「北海道以外」0人(0.0%)。「奥尻島以外の北海道」で訪れる観光地は23人の複数回答で、函館20人、札幌・小樽10人、江差6人、松前2人、他の北海道3人である。

居住地別に見ると、道内の人は奥尻島のみが多く、北海道以外の人は奥尻島以外の北海道も大会前後に訪れている【図表3.20】。

図表3.20 奥尻島以外に訪れる観光地

		居住地			合計
		奥尻町以外の道南	道南以外の北海道	北海道以外	
奥尻島以外に訪れる観光地	観光しない	14	6	1	21
	奥尻島のみ	14	18	0	32
	奥尻島以外の北海道	0	3	18	21
	北海道以外	0	0	0	0
合計		28	27	19	74

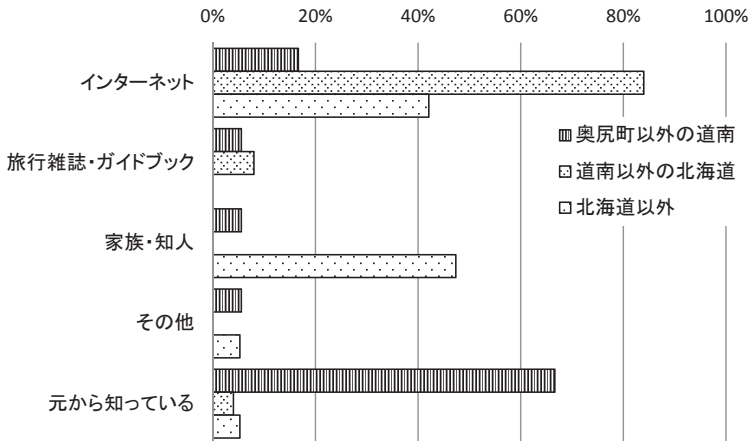


奥尻島や観光の情報入手先は「旅行代理店」1人(1.5%)、「インターネット」33人(50.8%)、「旅行雑誌・ガイドブック」3人(4.6%)、「家族・知人」10人(15.4%)、「その他」3人(4.6%)、「元から知っている」15人(23.1%)。インターネットが半数であり、元から知っているが2割である。

居住地別に見ると、道南で元から知っているが多く、北海道以外は家族・知人、他はインターネットが多くなっている【図表3.21】。

図表3.21 奥尻や観光情報の入手先

		居住地			合計
		奥尻町以外の道南	道南以外の北海道	北海道以外	
奥尻島や観光の 情報入手先	旅行代理店	0	1	0	1
	インターネット	3	21	8	32
	旅行雑誌・ガイドブック	1	2	0	3
	家族・知人	1	0	9	10
	その他	1	0	1	2
	元から知っている	12	1	1	14
合計		18	25	19	62



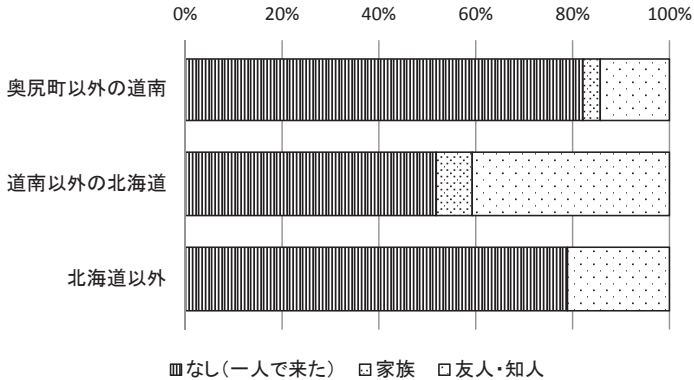
地元からの応援同行者は「なし（一人で来た）」54人（68.4%）、「家族」3人（3.8%）、「友人・知人」22人（27.8%）。地元からの応援同行者があるのは3割である。

居住地別に見ると、応援同行者があるのは道南以外の北海道が多い【図表3.22】。

大会前後の奥尻島での宿泊数は「1泊（大会後泊）」49人（63.6%）、「2泊」28人（36.4%）。4割が2泊である。

図表3.22 地元からの応援同行者

		居住地			合計
		奥尻町以外の道南	道南以外の北海道	北海道以外	
地元からの応援同行者	なし（一人で来た）	23	14	15	52
	家族	1	2	0	3
	友人・知人	4	11	4	19
合計		28	27	19	74



道南以外の北海道の人の多くが2泊している。奥尻島からの飛行機は函館空港行きのため、道南以外の北海道の人はフェリーで来ており、時間の都合上、2泊になっている【図表3.23】。

奥尻島への交通の手配は、個人65人（95.6%）、ツアー3人（4.4%）。ほぼ個人であり、一部、奥尻ムーンライトマラソンの参加ツアーの利用ある。

また奥尻島に來たいと思うか尋ねたところ、「同じ季節にまた來たい」52人（78.8%）、「違う季節にまた來たい」11人（16.7%）、「一度で良い」3人（4.5%）。「同じ季節にまた來たい」が8割であり、「違う季節にまた來たい」を合わせると95%に及ぶ【図3.24】。

図表3.23 奥尻島での宿泊数

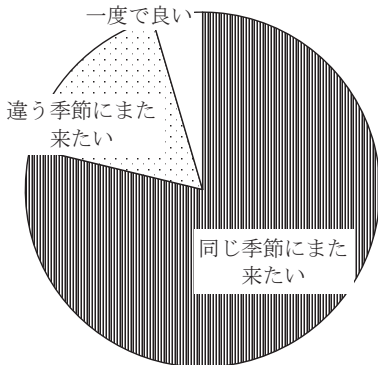
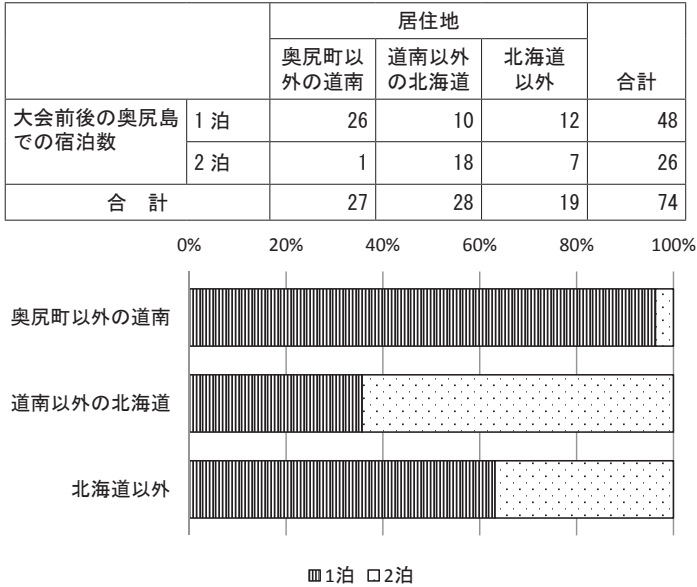


図3.24 奥尻島への再訪希望

7. まとめ

奥尻ムーンライトマラソンは、昨年も出場しているリピーターが3割近く、7割が来年も出場したいと回答している。道南が多いが北海道以外からも継続的に出場者を集めている。

知った経緯は新聞、ダイレクトメール、インターネット等とともに、北海道以外で友人・知人が多く、昨年のお場者からの口コミがあると考えられる。

マラソンコースは風景とともに沿道の応援の評価が高い。前夜祭・後夜祭りは魚介類等の料理とともに、子どもの踊り、物マネショー等の地元の人による取り組みが評価されている。奥尻島の滞在については、民宿のアウトホームなもてなしが評価されている。全般的に満足度は高く、地元の歓迎ムード、全力での応援、滞在全体を通じた親切な対応やふれあいが評価され、今後も訪れたいという声があがっている

東京マラソン、NAHAマラソン等をはじめ、多くの人が著名な国内マラソンに出場したことがあり、3割がホノルルマラソンのような海外マラソンに出場した経験がある。出場者は他のマラソン大会と比較して、奥尻ムーンライトマラソンを評価しているのである。

マラソン大会のお場理由は、旅行・観光が半数である。

奥尻島にはじめて来た人の多くは、奥尻島のいずれかの観光地を訪れている。奥尻島や観光の情報入手先は、道南の人で「元から知っている」が多く、道南以外の北海道は「インターネット」、北海道以外は「家族・知人」の口コミが多くなっている。北海道以外の人には「家族・友人」の口コミでマラソン大会を知ったり、友人・知人と一緒に出場している人が多く、これまでの出場経験者が友人・知人を誘っていることが推測される。

3割が地元からの応援同行者があり、道南以外の北海道の人が多い。道南以外の北海道の人は、友人・知人とともに奥尻島を訪れている。

また奥尻島に來たいと思うか尋ねたところ、ほぼ全員が「また來たい」と回答している。継続的な観光につながる可能性が考えられる。同行者や口

コミ効果を合わせて考えると、マラソン大会は多くの人を引き寄せる契機になっていると考えられる。

Ⅳ. リゾート地のファミリー系：大沼グレートラン・ウォーク出場者調査

1. 調査方法

大沼国定公園はラムサール条約登録湿地となっているリゾート地であり、近隣の函館と合わせた周遊観光が行われている。大沼地区を中心に七飯町に年間200万人の観光客が訪れる。

大沼グレートラン・ウォークは、8:30に開会式、ランニング・ウォーキングともに大沼湖畔を一周する14kmコースが9:30スタート、半周する6kmコースが10:45スタートである。地元名産品のりんご、王様しいたけ、山川牧場牛乳等に加えて、無料入浴券等がプレゼントされる。

2015年10月、大沼グレートラン・ウォーク出場者に対してアンケート調査を行った。当日にゼッケン等をわたす際にアンケート用紙を一緒に配布し、後日、記入の上、郵送で返送してもらった。

調査項目は回答者基本属性（性別、年代、居住地）、一緒に参加した人、参加目的、大会を知ったきっかけ、大会の満足度、一番良かった提供サービス、大会前後に周辺地域で観光するところ等である。

2. 回答者基本属性

配布数450、回収数356、回収率79.1%。

男性219人(62.9%)、女性129人(37.1%)【図4.1】。男性が6割であった。

年代は0～9歳2人(0.6%)、10～19歳14人(4.0%)、20～29歳13人(3.7%)、30～39歳50人(14.1%)、40～49歳91人(25.7%)、50～59歳83人(23.4%)、60～69歳75人(21.2%)、70歳以上26人(7.3%)【図4.2】。40代が1／

4であり、50代、60代が続く。男女別に年代を見ても大きな差は見られない。

居住地は七飯町21人(6.0%)、函館市215人(61.8%)、他の道南(渡島・檜山支庁管内)68人(19.5%)、道南以外の北海道33人(9.5%)、北海道以外11人(3.2%)【図4.3】。北海道以外は宮城、神奈川等であった。

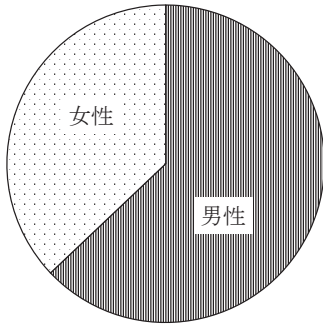


図4.1 回答者基本属性 (性別)

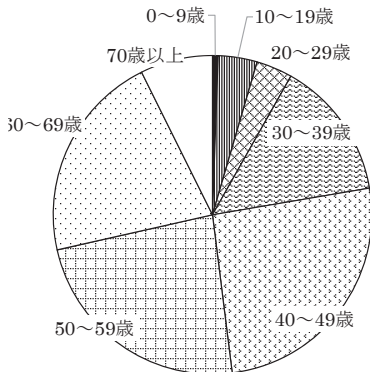


図4.2 回答者基本属性 (年代)

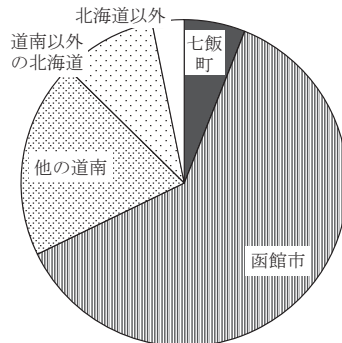


図4.3 回答者基本属性 (居住地)

3. 大沼グレートラン・ウォークへの参加

参加コースは、ウォーク1周28人（7.9%）、ウォーク半周43人（12.1%）、ランニング1周238人（67.0%）、ランニング半周46人（13.0%）【図4.4】。ランニング1周が7割である。

年代を見ると、ウォーク1周・ウォーク半周は60代が多く、ランニング半周は10代と40代が多い【図表4.5】。

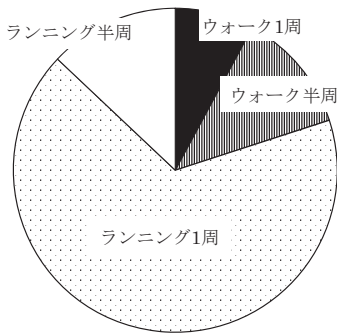
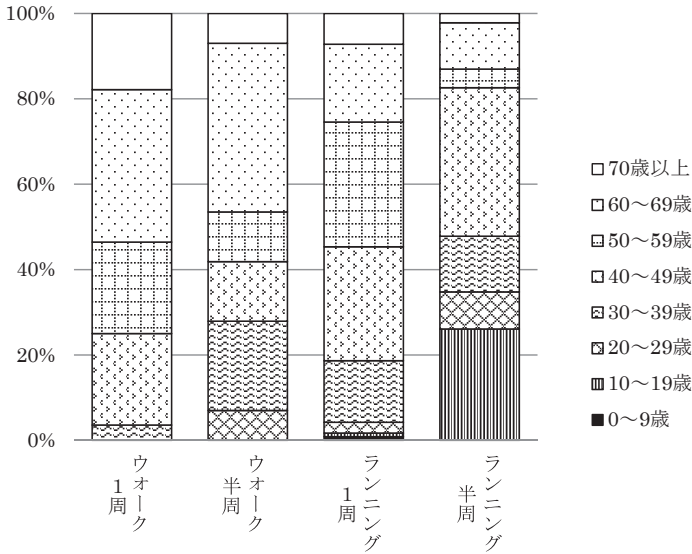


図4.4 参加コース

図表4.5 年代別、参加コース

		参加コース				合計
		ウォーク 1周	ウォーク 半周	ランニング 1周	ランニング 半周	
年代	0～9歳	0	0	2	0	2
	10～19歳	0	0	2	12	14
	20～29歳	0	3	6	4	13
	30～39歳	1	9	34	6	50
	40～49歳	6	6	63	16	91
	50～59歳	6	5	69	2	82
	60～69歳	10	17	43	5	75
	70歳以上	5	3	17	1	26
合計		28	43	236	46	353



これまでの参加回数は、1回目 139人 (39.7%)、2～5回目 141人 (40.3%)、6～9回目 38人 (10.9%)、10～14回目 12人 (3.4%)、15回以上 20人 (5.7%)【図4.6】。1回目、2～5回目がそれぞれ4割であった。15回以上の人もおり、リピーターが多い。

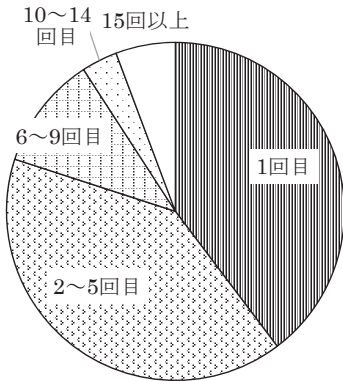


図4.6 これまでの参加回数

一緒に参加した人は351人の複数回答で、一人で112人(31.9%)、家族120人(34.1%)、友人・知人145人(41.3%)【図4.7】。7割が誰かと一緒に参加しており、家族と一緒にが多い。

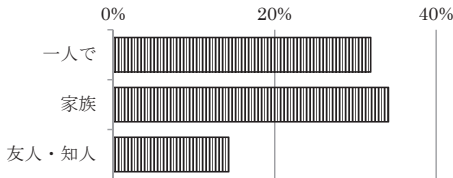


図4.7 一緒に参加した人

参加コース別に見ると、ウォーク1周の28人中の21人(75.0%)、ウォーク半周の43人中の36人(83.7%)が誰かと一緒に参加している。ランニング1周の234人中の158人(67.5%)、ランニング半周の45人中の33人(73.3%)が誰かと一緒に参加している。ウォーク半周の8割以上が誰かと一緒に参加しており、ウォーク1周、ランニング半周、ランニング1周の順であった。特にウォークで家族等と参加する大会になっていることがわかる。

参加目的は354人の複数回答で、健康・体力維持263人(74.3%)、ストレス解消13人(3.7%)、ダイエット3人(0.8%)、観光・旅行9人(2.5%)、興味関心53人(15.0%)、その他29人(8.2%)【図4.8】。3/4が健康・体力維持であり、興味関心が15%である。

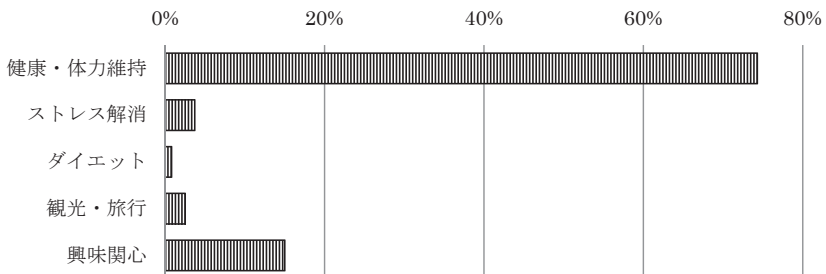


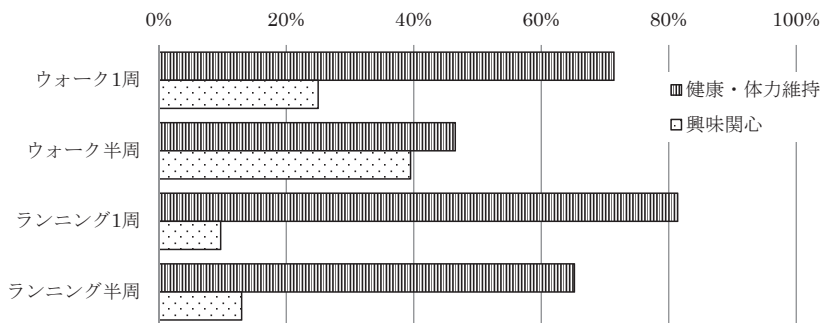
図4.8 参加目的

年代別に見ると、健康・体力維持は70歳以上で多く、30代・40代で比較的少ない。

参加コース別に見ると、健康・体力維持はウォーク半周で少ない。逆に興味関心はウォーク半周、ウォーク1周で多くなっている【図表4.9】。ウォークは大沼湖畔の紅葉等を楽しむために参加していることが推測される。

図表4.9 参加コース別、参加目的

		参加コース				合計
		ウォーク 1周 (n=28)	ウォーク 半周 (n=43)	ランニング 1周 (n=236)	ランニング 半周 (n=46)	
参加目的	健康・体力維持	20	20	192	30	262
	興味・関心	7	17	23	6	53



大会を知った経緯は353人の複数回答で、ダイレクトメール56人(15.9%)、新聞広告50人(14.2%)、ポスター・チラシ65人(18.4%)、インターネット39人(11.0%)、ランニング・ウォーキング関係の本や雑誌31人(8.8%)、友人・知人の情報90人(25.5%)、その他24人(6.8%)。友人・知人の情報が1/4であり、ポスター・チラシ、ダイレクトメール、新聞広告等が続く。その他には毎年参加している等があった。

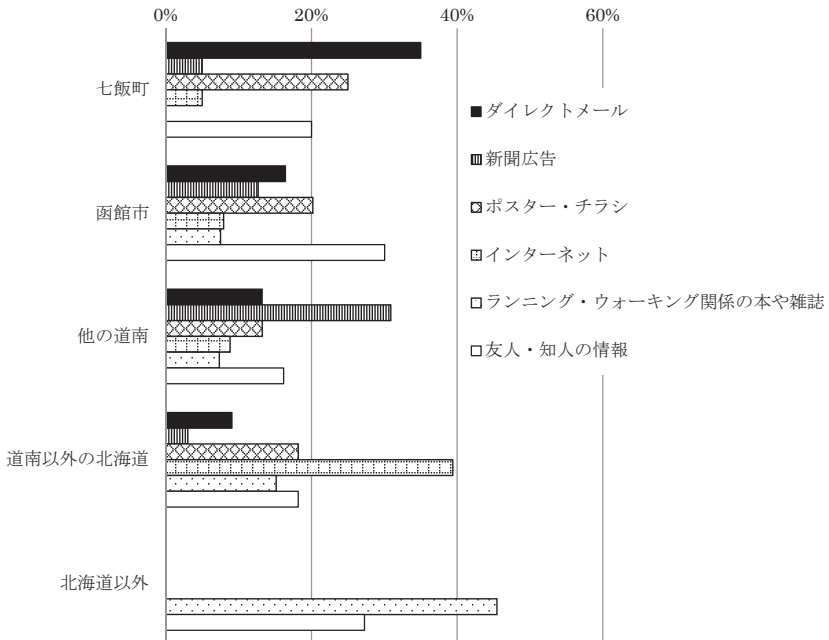
参加コース別に見ると、ランニング1周はダイレクトメールが多い。

居住地別に見ると、七飯町や函館市はポスター・チラシ、友

人・知人の情報が多い。他の道南は新聞広告、道南以外の北海道はインターネット、北海道以外はランニング・ウォーキング関係の本や雑誌が多い【図表4.10】。

図表4.10 居住地別、大会を知った経緯

		居住地					合計
		七飯町 (n=20)	函館市 (n=213)	他の道南 (n=68)	道南以外の北海道 (n=33)	北海道以外 (n=11)	
大会を知った経緯	ダイレクトメール	7	35	9	3	0	54
	新聞広告	1	27	21	1	0	50
	ポスター・チラシ	5	43	9	6	0	63
	インターネット	1	17	6	13	0	37
	ランニング・ウォーキング関係の本や雑誌	0	16	5	5	5	31
	友人・知人の情報	4	64	11	6	3	88



4. 大会の満足度

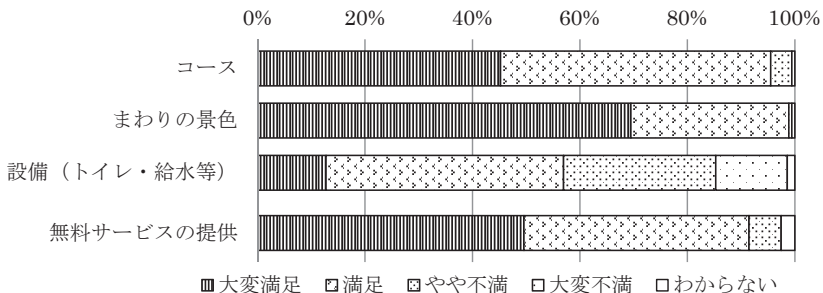
大変満足、満足、やや不満、大変不満、わからないの5段階で大会への満足度を尋ねたところ、コースについて、大変満足161人(45.2%)、満足179人(50.3%)、やや不満14人(3.9%)、大変不満0人(0.0%)、わからない2人(0.6%)【図4.11】。大変満足と満足を合わせると95%を超える。参加コースによる差は見られない。

「前半の距離標示がない」、「でこぼこで走りづらい」、「道路がでこぼこ」等の意見があった。「2周コースがあれば参加したいです」という意見もあった。

まわりの景色について、大変満足246人(69.5%)、満足104人(29.4%)、やや不満2人(0.6%)、大変不満0人(0.0%)、わからない2人(0.6%)【図4.11】。大変満足と満足を合わせるとほぼ100%近い。性別、年代、居住地による差は見られない。

「紅葉の時期で良かった」、「景色が良かった」、「絶景でした」等の意見があった。

設備(トイレ・給水等)について、大変満足45人(12.7%)、満足156人(44.2%)、やや不満100人(28.3%)、大変不満47人(13.3%)、わからない5人(1.4%)【図4.11】。やや不満、不満が比較的多く、合わせると4割になる。性別、年代、居住地による差は見られない。参加コース別に見ると、ウォー



図表4.10 居住地別、大会を知った経緯

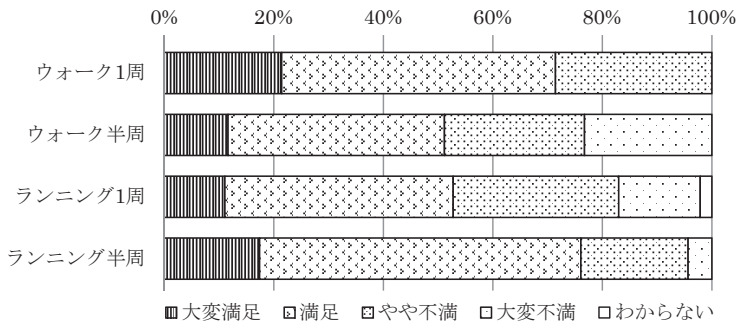
ク半周、ランニング1周の人でやや不満、不満が比較的多い【図表4.12】。

給水について「給水の量が少ない」、「スタートから第一給水までが長く感じられた」、「給水所を5kmごとにして欲しい」等の意見があり、「給水の準備が遅く給水できなかった」、「最初の給水地点では自分で水を入れた」等の声があがっていた。「スポーツドリンクが欲しい」という声もある。加えて、トイレについて「トイレが少ない」「スタート地点のトイレが混雑している」、「子どもがいるので途中でトイレが欲しい」等の意見があがっていた。

無料サービスの提供について、大変満足174人(49.0%)、満足147人(41.4%)、やや不満21人(5.9%)、大変不満0人(0.0%)、わからない9人(2.5%)【図4.11】。大変満足と満足を合わせると9割を超えていた。性別、年代、居住地による差は見られなかった。

図表4.12 参加コース別、設備（トイレ・給水等）の満足度

		参加コース				合計
		ウォーク 1周	ウォーク 半周	ランニング 1周	ランニング 半周	
設備（トイレ・ 給水等）	大変満足	6	5	26	8	45
	満足	14	17	98	27	156
	やや不満	8	11	71	9	99
	大変不満	0	10	35	2	47
	わからない	0	0	5	0	5
合計		28	43	235	46	352



「しいたけ、スイーツが良かった」、「スイーツは少なくとも2種類は欲しい」、「すべてとてもおいしかったです」、「タオルが欲しかった」、「以前より質が落ちた」等の商品に対する意見があり、「参加者の並び方や案内の改善をして欲しい」等の提供方法に対する声もあった。

一番良かった提供サービスは343人の複数回答で、記念品（王様しいたけ）74人（21.6%）、温泉入浴券128人（37.3%）、スイーツ44人（12.8%）、ドリンク16人（4.7%）、りんご19人（5.5%）、スープ41人（12.0%）、特典クーポン4人（1.2%）、ウォームアップエアロ11人（3.2%）、特にない13人（3.8%）。温泉入浴券が4割と一番多く、記念品（王様しいたけ）が2割、スイーツ、スープが1割であった【図4.13】。

記念品（王様しいたけ）は高齢者以外に評判が良く、温泉入浴券は女性、高齢者に人気であった。居住地による差は見られなかった。

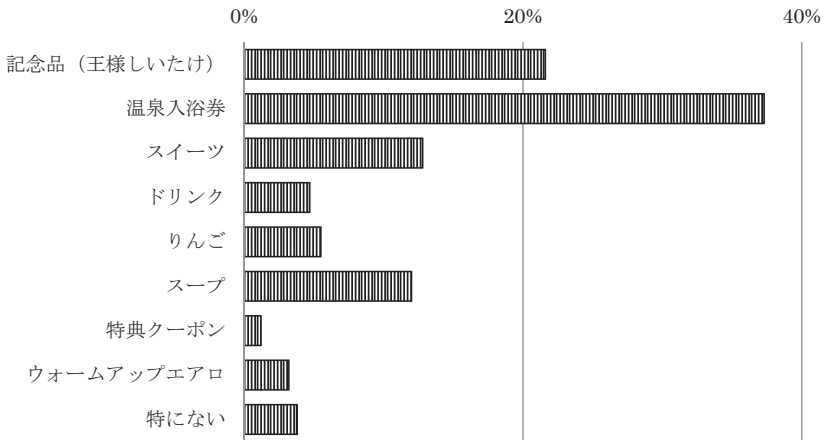


図4.13 一番良かった提供サービス

5. 他都市のマラソン大会への出場

他都市のマラソン大会への出場は、出場したことはない95人（27.0%）、3km以下12人（3.4%）、5km程度8人（2.3%）、10km程度22人（6.3%）、

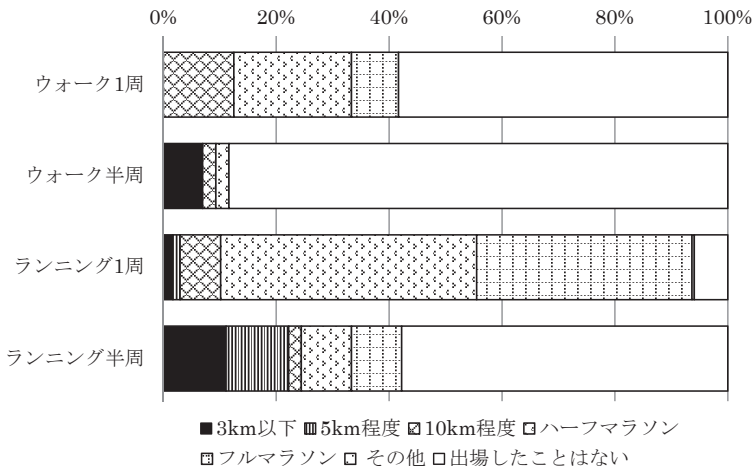
ハーフマラソン117人 (33.2%)、フルマラソン97人 (27.6%)、その他1人 (0.3%)。7割が出場経験があり、ハーフマラソン、フルマラソンが多い。

居住地別に見ると、七飯町と函館市でハーフマラソンが多く、他の道南、道南以外の北海道でフルマラソンが多い。

今回の大会の参加コースで見ると、ランニング1周参加者はハーフマラソン、フルマラソンが多い。ランニング1周は14.4kmであるが、ハーフマラソン、フルマラソン経験者が多く参加していることがわかる【図表4.14】。

図表4.14 他都市のマラソンへの出場経験

		参加コース				合計
		ウォーク1周	ウォーク半周	ランニング1周	ランニング半周	
他都市のマラソン大会への出場距離	3km以下	0	3	4	5	12
	5km程度	0	0	3	5	8
	10km程度	3	1	17	1	22
	ハーフマラソン	5	1	107	4	117
	フルマラソン	2	0	90	4	96
	その他	0	0	1	0	1
	出場したことはない	14	38	14	26	92
合計		24	43	236	45	348



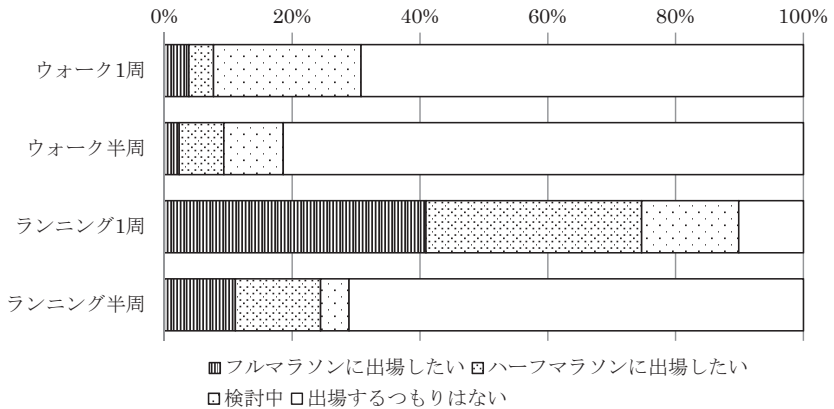
近郊の函館ハーフマラソンへの出場は、出場したことがある197人(55.6%)、出場したことはない157人(44.3%)。半数以上が出場したことがある。30歳以上で出場したことがある人が多くなる。居住地による差は見られない。他都市のマラソン大会への出場距離は、当然のことながらハーフマラソンの人が多い。

来年度の函館フルマラソンへの出場希望は、フルマラソンに出場したい105人(29.8%)、ハーフマラソンに出場したい90人(25.6%)、検討中48人(13.6%)、出場するつもりはない109人(31.0%)。3割がフルマラソン、1/4がハーフマラソンへの出場を考えている。居住地では七飯町の人で参加希望が少ない。

本大会の参加コースのランニング1周の人でハーフマラソン、フルマラソンの出場希望が多い【図表4.15】。

図表4.15 来年度の近郊の函館フルマラソンへの出場希望

		参加コース				合計
		ウォーク 1周	ウォーク 半周	ランニング 1周	ランニング 半周	
来年度の 函館フル マラソン への出場 希望	フルマラソンに 出場したい	1	1	97	5	104
	ハーフマラソン に出場したい	1	3	80	6	90
	検討中	6	4	36	2	48
	出場するつもり はない	18	35	24	32	109
合 計		26	43	237	45	351



6. 大沼周辺の観光

地元の七飯町と近隣の函館市以外の人に、大会前後に周辺地域で観光するところを尋ねると、大沼周辺のみ46人(43.8%)、函館20人(19.0%)、観光しない39人(37.1%)【図4.16】。4割が大沼周辺をめぐり、2割が函館を訪れている。

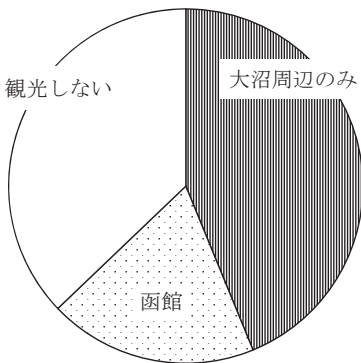


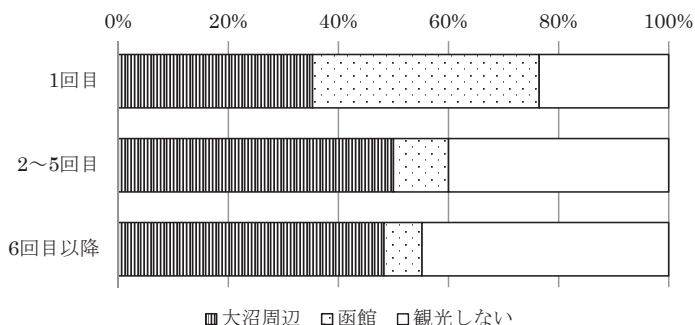
図4.16 大会前後の周辺地域の観光

居住地別に見ると、他の道南61人のうち大沼周辺24人(39.3%)、函館6人(9.8%)。道南以外の北海道33人のうち大沼周辺16人(48.5%)、函館12人(36.4%)。北海道以外9人のうち大沼周辺6人、函館2人である。遠方の方が大会前後に観光をしており、道南以外の北海道の人が比較的多く函館を訪れていた。

大会へのこれまでの参加回数別に見ると、参加回数が多くなるほど、観光しない人が多くなる。ただし、会場の大沼周辺をめぐる人は参加回数が増えでもあまり変わらない【図表4.17】。

図表4.17 これまでの参加回数別、大会前後の周辺地域の観光

		これまでの参加回数			合計
		1回目	2～5回目	6回目以降	
大会前後の周辺地域の観光	大沼周辺	12	20	14	46
	函館	14	4	2	20
	観光しない	8	16	13	37
合計		34	40	29	103



道南以外の44人に限って宿泊先をみると、大沼周辺に宿泊17人(38.6%)、函館に宿泊20人(45.5%)、他の市町村に宿泊1人(2.3%)、宿泊しない6人(13.6%)【図4.18】。4割近くが大沼周辺に宿泊し、45%程度が函館に宿泊している。

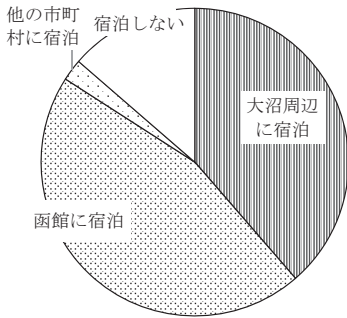


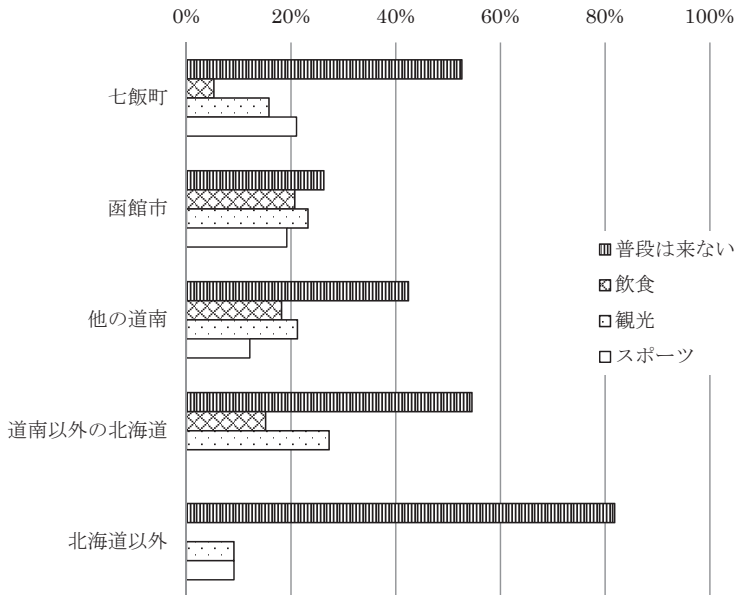
図4.18 大会前後の周辺地域の宿泊先

七飯町や函館市の人を含めて、普段、大沼に来る理由を尋ねたところ 332 人の複数回答で、普段は来ない 118 人 (35.5%)、飲食 61 人 (18.4%)、観光 73 人 (22.0%)、スポーツ 51 人 (15.4%)、その他 43 人 (13.0%)。普段は来ないが 1 / 3 であり、観光、飲食がそれぞれ 2 割であった。その他は温泉、墓参り等があった。

居住地別に見ると、普段は大沼に来ない人は七飯町 19 人中 10 人 (52.6%)、函館市 198 人中 52 人 (26.3%)、他の道南 66 人中 28 人 (42.4%)、道南以外の北海道 33 人中 18 人 (54.5%) である。七飯町はスポーツ利用が多く、2 割である。函館市は飲食や観光、スポーツ利用がそれぞれ 2 割ある。他の道南は飲食や観光が、それぞれ 2 割ある。道南以外の北海道の人は観光が多く 3 割である【図表 4.19】。

図表 4.19 居住地別、普段の大沼に来る理由

		居住地					合計
		七飯町 (n=19)	函館市 (n=198)	他の道南 (n=66)	道南以外 の北海道 (n=33)	北海道 以外 (n=11)	
普段、 大沼に 来る理 由	普段は来ない	10	52	28	18	9	117
	飲食	1	41	12	5	0	59
	観光	3	46	14	9	1	73
	スポーツ	4	38	8	0	1	51



7. まとめ

参加コースは、ウォーク1周・半周、ランニング1周・半周があり、ウォークは60代が多く、ランニング半周は10代と40代が多い。複数のコース設定が多様な年代の参加を可能にしていることがわかる。

これまでの参加回数は、6割が2回目以上の参加であり、15回以上の人もいる。リピーターが多くなっている。

7割が誰かと一緒に参加しており、家族と一緒に多い。家族と一緒に参加する大会になっている。

参加コース別に見ると、ウォークで家族等と参加している人が多く、参加目的が興味関心の人が多くなっている。ウォークが家族等と一緒に大沼湖畔の紅葉等を楽しむコースになっていることが推測される。

大会についてコース、まわりの景色、無料サービスの提供はおおむね満足

されている。設備（トイレ・給水等）について不満が比較的多く、トイレの数、給水所の数・準備等で改善が求められるものの、景色や無料サービスを楽しむ大会になっていることが推測される。

一番良かった提供サービスは温泉入浴券が一番多く、記念品（王様しいたけ）、スイーツ、スープ等があげられていた。

他方で、ランニング1周参加者を中心にハーフマラソン、フルマラソンの経験者が多く、近郊で来年度予定されている函館フルマラソンへの出場希望者も多い。大会が近郊のハーフマラソン及びフルマラソンと連動して、ハーフマラソン、フルマラソン経験者の練習の場としても利用されていることがわかる。

大会を知った経緯は、地元の七飯町と近郊の函館市はポスター・チラシ、友人・知人の情報が多い。他の道南は新聞広告、道南以外の北海道はインターネット、北海道以外はランニング・ウォーキング関係の本や雑誌が多い。

観光について、七飯町と函館市以外の人は、大会前後に4割が大沼周辺をめぐり、2割が函館を訪れている。遠方の人の方が大会前後に観光をしており、大会が観光につながっていることがわかる。また、参加回数が多くなっても大沼周辺を観光する割合はさほど変わらず、大会参加が毎年恒例の観光につながっていることが推測される。

加えて、道南以外の人は4割近くが大会前後に大沼周辺に宿泊し、45%程度が函館に宿泊している。

普段から大沼を訪れている人は、七飯町の半数、函館市の3／4、他の道南の6割である。大会は普段、大沼に来ない人たちを含めて、大沼に来る機会になっていることがわかる。普段から大沼を訪れている人は観光だけでなく飲食、スポーツ利用をしていることから、大会をきっかけにして大沼への再訪を促す工夫を考えていく可能性がある。

V. 3つのマラソン大会への観光への波及 【表5.1】

3つのマラソン大会を見ると、半数から3/4が大会前後に周辺地域を観光している。旅行・観光を目的とした出場者も多い。マラソン大会が観光につながっていることがわかる。

ポイントになるのは一緒に出場及び応援同行者、ツアー、宿泊である。函館ハーフマラソンでは応援同行者がいる人、ツアー参加者の方が函館を観光している。ただし、ツアーは一部に限られており、参加者は1割に満たない。宿泊では函館ハーフマラソンは早朝のスタートだったため前泊者が多いが、後泊が観光につながっている。

ツアーは奥尻ムーンライトマラソンでも一部組まれており、観光につながるためにはツアー設定の拡充が求められる。宿泊には奥尻ムーンライトマラソンの前夜祭、後夜祭が参考になる。地元奥尻島の食材が出され、地元の歓迎ムードが評価されている。

観光情報の入手先は、元から知っている、インターネット等が多いが、函館ハーフマラソンで事前にゼッケン等を送付する際にあれば良かったものとしてクーポン、観光マップ等があげられており、さらなる情報提供が求められる。

出場者を見ると、都市型の函館ハーフマラソンは何度も函館に来たことがある人が出場しており、リゾート型の奥尻ムーンライトマラソンははじめて奥尻島に来た人が半数である。都市型は何度も開催地を訪れている人が出場する傾向があると考えられる。加えて、ハーフマラソンやフルマラソン等だけでなく多様な参加を認めているファミリー系は普段から開催地に来ている人が2/3である。ファミリー系は普段から飲食や観光、スポーツ利用等で開催地に来ている人が比較的多く出場する傾向があると考えられる。

大会のリピーターは3～6割である。大会へのこれまでの出場経験を尋ねているため開催が2回目の奥尻ムーンライトマラソンで低くなっているが、大会のリピーター率は高いと考えられる。

大会を知った経緯はインターネット、新聞等があるが、遠方から、これまでの出場者から誘われた口コミもある。普段から開催地を訪れているファミリー系は友人・知人等の口コミ、ポスター・チラシ等が有効である。都市型、リゾート地型、ファミリー系というそれぞれの対象者にPRする媒体の選択が必要である。

いずれも他都市のマラソン大会の出場経験者が7割であり、各地のマラソン大会の経験者が出場していることがわかる。ハーフマラソンやフルマラソン等だけでなく多様な参加を認めているファミリー系も同様であり、ウォークを含むような大会でさえ、ハーフマラソンやフルマラソンの経験者が練習のために出場していることがわかる。

加えて、函館ハーフマラソン、奥尻ムーンライトマラソンの出場者は、東京マラソン、NAHAマラソン等の各地の国内マラソン大会、ホノルルマラソン等の海外マラソン大会に数多く出場していた。出場者の一部は、観光を兼ねて各地のマラソン大会をめぐるということが推測される。観光地で開催されるマラソン大会として選択されるよう魅力を伝えていくことが求められる。

表5.1 3つのマラソン大会の観光への波及

	都市型： 函館ハーフマラソン	リゾート地型： 奥尻ムーンライトマ ラソン	リゾート地の ファミリー系： 大沼グレートラン・ ウォーク
大会前後の周辺 地域の観光	半数が函館及び大沼 を観光	3 / 4 が奥尻島を観光	6割が大沼周辺及び 函館を観光
出場理由	旅行・観光ができる 3割	旅行・観光ができる 半数	主にウォーキングで 紅葉散策を楽しみに 参加
一緒に出場及び 応援同行者	●一緒に出場 4割 ●応援同行者 半数	●一緒に出場 半数 ●応援同行者 3割	一緒に出場 7割
開催地周辺での 宿泊	函館市内で宿泊 8割 ●前泊 半数 ●前後泊 1 / 4	奥尻島で宿泊 全員 ●後泊のみ 6割 ●2泊 4割	大沼に宿泊 4割 函館に宿泊 45%
観光情報の入手	元から知っている・ インターネット等	元から知っている・ インターネット等	
大会を知った経緯	インターネット、新 聞等	北海道以外で友人・ 知人が多い（前回出 場者からの誘い）	友人・知人、 ポスター・チラシ等
大会のリピーター	7割がリピーター	3割がリピーター	6割がリピーター
これまでに開催 地に来た経験	はじめて函館に来た 15%	はじめて奥尻島に来 た半数	普段から大沼に来て いる人が2 / 3
他都市のマラソン 大会の出場経験	7割（国内・海外の 出場大会多数）	7割（国内・海外の 出場大会多数）	7割